

小中連携による外国語活動の在り方に関する研究 (中間報告)

平成23年4月からの新学習指導要領の完全施行により、すべての小学校で週1時間の「外国語活動」が必修となり、各方面で期待と不安が交錯してきている。本研究では、そうした不安を取り除くように、現状を精査し、小中連携による「外国語活動」の円滑な実施、並びに、児童生徒のコミュニケーション能力の素地を育成する方策を探った。その結果、児童生徒の情意面で小中間には段差があること、「外国語活動」の情報を共有することが、教員・児童生徒にとって有益であること等が明らかとなった。

<検索用キーワード> 外国語活動 コミュニケーション能力の素地 小中連携 ALT
新学習指導要領 ティーム・ティーチング 英語 学級担任

研究会委員

小牧市立桃ヶ丘小学校教諭	竹内 伸明
小牧市立大城小学校教諭	松浦 恵美
武豊町立衣浦小学校教諭	神谷 修司
武豊町立富貴小学校教諭	氏家 拓也
小牧市立桃陵中学校教諭	伊藤実友希
武豊町立富貴中学校教諭	小林 哲子
総合教育センター研究指導主事	山中 信子
総合教育センター研究指導主事	犬塚 章夫
総合教育センター研究指導主事	川澄 誠 (主務者)

1 はじめに

平成14年7月に文部科学省によって策定された「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」の中で、小学校英語活動実施状況調査が行われ、平成15年度には全国の小学校の約88%が、平成19年度には97.1%の小学校が何らかの形で英語活動を実施していることが分かった。

平成20年1月中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」の中で、小学校段階の「外国語活動」については、「小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とする外国語活動については、現在、各学校における取組に相当ばらつきがあるため、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。(後略)」とされ、「外国語活動」の新設が答申され、平成20年3月に「外国語活動」を含めた小学校学習指導要領が告示された。

小学校での「外国語活動」が広がりを見せるにつれて、その影響は中学校での英語教育にまで及ぶ

ことは明らかである。その結果、小学校と中学校の英語教育に段差が強く認識されたり、英語学習の習熟及び学習意欲の個人差が拡大したりする可能性が懸念されている。

なお、この研究においては、新しい小学校学習指導要領の告示以前からの活動に関する記述もあるので、「外国語活動」と「英語活動」がほぼ同義に用いられていることを申し添える。

2 愛知県の「外国語（英語）」教育について

本県の公立小学校における英語教育の状況については、全体の98.5%の学校において、総合的な学習の時間等を活用し、学年に応じて、歌やゲームなど英語に親しむ活動、簡単な英会話（あいさつ、自己紹介等）の練習などが行われている。こうした英語活動の年間平均実施時間数は、文部科学省「英語活動実施状況調査」によれば、6年生で見た場合、全国で平成18年度は14.8時間、平成19年度は15.9時間であるが、本県では平成18年度には13.7時間と全国をやや下回る水準となっている。しかし、豊橋市や一宮市、豊川市（旧御津町）、飛島村のように、構造改革特別区域制度を活用し、独自の英語カリキュラムにより、英語活動・英語科の授業時間数を増やして取り組んでいる自治体もある。

3 新学習指導要領について

小学校学習指導要領の「外国語活動」に関する記述と中学校学習指導要領の「英語」に関する記述を併せて読み解くことにする。

(1) 小学校学習指導要領について

小学校では「外国語活動」が5、6年生で必修化（週1時間）され、中学校では英語の授業数が週3時間から週4時間へと増加し、義務教育における外国語（英語）の授業数が増加することになる。新学習指導要領のねらいの一つは、外国語、特に、英語を実際にコミュニケーションの場で使える力を育成したいということである。

小学校での「外国語活動」では「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること」などを通して、「コミュニケーション能力の素地の育成」を目標としている。したがって、教員が、児童の発達段階や学習負担を考慮しつつ、英語の音声やリズムに慣れ親しむような、コミュニケーションへの積極性を育成できる題材や活動を準備することが重要である。

また、同時に、「言語や文化についての体験的な理解」も重要視されている。よって、指導する内容については、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるように指導することと、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるように指導することに分けられて、以下のような指導項目が挙げられている。

〈積極的なコミュニケーションのために〉

- ①外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ②積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- ③言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

〈言語・文化の体験的な理解〉

- ①外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- ②日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- ③異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

なお、文字の指導については、児童の学習負担に配慮しつつ音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いるものと考えられている。これは、小学校での週1時間という限られた「外国語活動」の中で、児童の興味・関心を引き付ける音声の指導が優先されるべきであるためであろう。文字の指導については、その後でも十分に可能であり、小学校で音声の指導と同時に行うと、児童が文字をあまりに頼りにする危険性もあり、また、音声面でローマ字（小学3年で学習）からの干渉があることも考えられる。したがって、小学校段階では、例えば、使用する絵カードの中に、さりげなく文字を入れておき、児童がそれを認識できるレベルになれば十分である。文字を書く指導は小学校段階ではする必要はないと考えられる。しかしながら、児童が自ら進んで文字を書きたいのならば、やめさせる必要はないであろう。

(2) 中学校学習指導要領について

中学校では、学習する語彙数が「900語程度まで」から「1,200語程度」に増える。基本的なコミュニケーションをするのに900語では不十分である、という考えによるものであろう。また、「既習事項を繰り返して指導し、定着を図る」ことで、語彙や文法知識の定着、それを実践的に活用する力の育成につながると考えられている。

辞書については、自分で話したり書いたりする力を身に付けるために必要なものであるため、これまで以上に積極的な活用を勧めている。使用する英語例については、「あいさつ」や「自己紹介」等の場面ごとの例の他、「お礼を言う」や「気持ちを伝える」等の、コミュニケーションを円滑にする英語の具体例も示されている。

中学校の新学習指導要領の中で、各学年の指導に関する配慮事項として、「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ」ることという文言が追加されている。また、英語の4技能の目標について、現行学習指導要領では「英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて相手の意向などを理解できるようにする」「英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにすること」とされていたが、新学習指導要領では「英語で聞くことに慣れ親しみ」と「英語で話すことに慣れ親しみ」という最初の部分が削除されている。

(3) コミュニケーション能力の素地

現行の中学校学習指導要領で削除された部分の理念がそのまま小学校「外国語活動」に移行したわけではないだろうが、小学校で育成すると期待されている「コミュニケーション能力の素地」の中には、以下の項目が含まれると思われる。

- ① コミュニケーションに対する積極的な態度
- ② 英語を聞くこと、英語で話すことに慣れ親しむことができる音声的な力

これは、「外国語活動」の目標の「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら」の部分に応じたものと考えられる。

中学校の新学習指導要領の「言語の働きの例」の項目は、①コミュニケーションを円滑にする、②気持ちを伝える、③情報を伝える、④考えや意図を伝える、⑤相手の行動を促す、の5つになっている。一方で、小学校の新学習指導要領の「外国語活動」においては、その5つが「コミュニケーションの働きの例」として挙げられ、さらに、内容の取扱いの配慮事項として、「言葉によらないコミュニ

ケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること」とされている。

したがって、教員としては、「コミュニケーション」は、言葉によるものと言葉によらないものの両方で成立していることという認識をもつ必要がある。

今年度（平成20年度）になり、文部科学省から「英語ノート（試作版）」「小学校外国語活動研修ガイドブック」が出版された。「外国語活動」は学校裁量で平成21年度からの前倒しが可能なこともあり、「英語ノート（試作版）」、指導を支援する付属CD、教師用指導資料が、それまでに全小学校に配付されることになっている。また、指導主事等を対象とした指導者研修も実施され、「小学校外国語活動研修ガイドブック」が5、6年の全学級担任に配付されるなど、円滑な導入に向け準備が行われている。

4 研究の目的

上述してきたように、外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う「外国語活動」が小学校に導入される。このことを受け、小学校間及び小中学校間で外国語（英語）教育に関する連携システムを構築し、その活用を工夫することで、児童生徒のみならず教員にとっても有効な学習環境づくりに寄与することを目的とする。

5 研究の方法

研究協力校とセンター所員による共同研究の形態をとる。

研究協力校は、小学校2校と中学校1校の組合せとした。また、連携会議（連絡会）の開催を念頭に置いていたので、その3校が近隣にあることが望ましいと判断した。そして、現在、「外国語活動」に関連のある研究拠点校となっている小学校が県内に複数あり、校内研修等も含めた取組を行っていることから、「外国語活動」に関して、ある1つの中学校へ進学してくる小学校の組合せは、①研究の拠点校1校とそうでない小学校複数校、または、②すべてそうでない小学校、のいずれかになる（一小一中を除く）ことが分かっている。

以上のことから、この研究では、①に該当する組合せの代表として、小牧市立桃陵中学校、小牧市立桃ヶ丘小学校（研究拠点校）、小牧市立大城小学校、②の組合せの代表として、武豊町立富貴中学校、武豊町立富貴小学校、武豊町立衣浦小学校、に協力を依頼した。

6 研究の概要

(1) 学校間連携システムの構築

小学校段階における「外国語活動」については、現在でも多くの小学校で総合的な学習の時間等において取り組まれているが、ALT活用の頻度等で見られるように、各学校における取組には相当のばらつきがあり、また、研究拠点校とそうでない学校の間でもその取組に相当な温度差がある。

中学校においては、小学校における「外国語活動」の内容や指導の実態等を十分に踏まえた上で、小学校における「外国語活動」を通じて培われた一定の素地を踏まえて、中学校における英語教育への円滑な移行と、指導内容の一層の充実・改善を図ること、すなわち、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能のバランスのとれた育成がなされるよう見直しを図る必要がある。

そこで、小学校で学級担任が安心して「外国語活動」を実践できる環境を整え、中学校の英語教員

が小学校で培った英語力を更に伸長させることができるように、小学校間及び小中学校間での連携体制・協力体制を構築する方策を研究した。

具体的には、各学校の外国語（英語）を担当する教員が集まり、授業の様子や児童生徒の実態等を把握し合うこと、児童生徒のコミュニケーション能力の素地・基礎を養う活動や授業で活用できる題材等を共有すること、また、授業等での工夫を忌憚なく話し合える学校間連携会議（連絡会）を開催することを目指した。

小牧地区の3校（小牧市立桃陵中学校、桃ヶ丘小学校、大城小学校）では、研究拠点校となっている桃ヶ丘小学校の授業を大城小学校と桃陵中学校の教員が参観したり、3校の代表者で連絡会議を開催し情報交換をしたりして、小中連携の実践を行った。[【詳細：小中連携による外国語活動（小牧地区）】](#)

同様に武豊地区の3校（武豊町立富貴中学校、富貴小学校、衣浦小学校）でも、授業参観や連絡会議等の実践を行い、小学校での「外国語活動」に関する創意工夫を考えた。[【詳細：小中連携による外国語活動（武豊地区）】](#)

また、センター所員で、今後の小中連携の推進への一助になるように、小中連携の普及に関する理論的考察を行った。[【詳細：小中連携による外国語活動の普及に関する考察】](#)

(2) アンケートによる実態調査

現状では、小学校「外国語活動」と中学校「英語」において、学習の目的、内容、学習活動の性格、評価の観点等、多くの点で「段差」が見受けられる。「外国語活動」の取組が増加し、小学校教員がその指導に積極的に行えば、従来の英語活動にない新たな内容や学習活動が開発され、児童のコミュニケーションに対する積極的な態度が育成されることが予想されるので、その「段差」はますます大きくなる可能性がある。したがって、中学校では、今まで以上に工夫を凝らした英語の学習環境を整える必要がある。

この研究では、研究協力校の児童生徒にアンケートを実施し、分析を加え、その実態を正確にとらえることによって、小学校での「外国語活動」の更なる工夫を考えたり、小学校で培われたコミュニケーションに対する積極性を、中学校で更に伸長させる授業展開を考えたりするための基礎資料として活用することをねらいとした。[【詳細：小中連携による外国語活動アンケートからみえてくること】](#)

7 今後の課題

平成23年4月から新しい学習指導要領が完全施行され、すべての小学校で週1時間の「外国語活動」が必修となる。それに向けて、愛知県では、平成21、22年度に「担任が主で行う外国語活動」をテーマとして、「中核教員研修」を予定している。愛知県は小学校数が多く、各校から1人の中核教員を一箇所に集めて研修をすることが難しく、また、市町村によって外国語活動への取組の度合いが異なっていることもあり、県の研修会を市町村の研修の中心となる者への研修と位置付け、その後、各市町村で中核教員を集めての研修会を開催することになる。

そこでの活動を基にして、各小学校での教員研修が計画立案されることになるだろう。既に「外国語活動」を年間35時間のペースで開始している市町村や、まだ、それほど時間をかけていない市町村まで、多様な状況であることが推測されるので、それぞれ学校で状況に適した教員研修を展開する必要がある。

小中連携をベースにする本研究では、各小学校での教員研修を、通例の研究授業等に加え、隣接の小学校教員の協力や中学校英語教員の指導助言を交えることで、より効果的な教員研修にする方策を検討していきたい。また、小学校で培われたコミュニケーションに対する積極性や音声的な力という

「コミュニケーション能力の素地」を中学校で維持しつつ、アルファベット導入時における工夫、読むこと・書くことに対する指導方法等を考察していきたい。

小中連携による外国語活動（小牧地区）

1 桃花台地区の紹介（桃陵中・桃ヶ丘小・大城小の学区）

(1) 各校の様子

ア 桃ヶ丘小学校

昭和51年の開校で、今年で創立32年となった。桃花台地区に建てられた第1番目の小学校である。児童数のピークは昭和59年度の1,200名（30クラス）であったが、現在の在籍数はその半分となっている。現在の大きな特徴は外国籍児童数（主にブラジル、ペルー、ボリビア）が小牧市で一番多いことで、75名を超えており、ここ2、3年は年に10名近くの外国籍児童が転入してくる。それぞれの学級には必ず数名の外国籍の児童がいて、休み時間にはポルトガル語やスペイン語の会話が聞かれる。通学団によっては全員が外国籍の班もある。

児童は子供らしい幼さがあり、英語活動の最初に取り入れている”Song time”では高学年でも楽しく歌うことができる。また、”Activity time”でのゲームにも夢中になって取り組んでいる。他校での指導の経験もあるALTのピーター先生によると「桃小の子はととても乗りがよい」とのことである。

イ 大城小学校

平成2年の開校で、現在19年目の桃花台地区の中では一番新しい小学校である。開校当時は児童数383名であったが、徐々に増加して、平成8年度から平成16年度までは1,000人を超え、ピーク時は平成9年度の1,099名であった。平成17年度以降は減少傾向にあり、今年度の児童数は719名であるが、外国籍の児童は年々増加しており、今年度は約60名が通っている。

ウ 桃陵中学校

昭和57年に開校し、今年で創立27周年になる。桃ヶ丘小学校、大城小学校、^{すえ}陶小学校の3つの小学校を卒業した生徒たちが入学してくる。学級数は1、2、3年ともそれぞれ6学級、特別支援学級が2学級の計20学級、生徒数は10月末現在653名で、市内に9校ある中学校の中で2番目に生徒数が多い学校である。その中でも外国籍の生徒は現在26名が在籍しており、5年後には40名を超え、さらに今後増えていく傾向にあると思われる。

<平成20年度 5月の児童生徒数等>

学 校	児童生徒数	学 級 数								そ の 他
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計	
桃ヶ丘小	580名	3	3	3	3	3	3	2	20	全児童が桃陵中へ
		88	105	96	101	97	93	(5)		
大 城 小	719名	4	3	3	4	4	4	2	24	約8割が桃陵中へ
		108	93	106	138	133	141	(9)		
桃 陵 中	652名	6	6	6				2	20	桃ヶ丘小・大城小・陶小から入学
		205	229	218				(8)		

2 英語活動への取組

(1) 桃ヶ丘小学校の英語活動

ア 小牧市の英語活動拠点校として

平成19年度4月、文部科学省より「小学校における英語活動等、国際理解活動推進事業」の2年間の研究委嘱を受け、「小学校の英語活動をどう実践していくか」の研究を進めている。

小学校の英語活動のねらいは、英語に対する興味・関心をもたせ、外国の人や文化にかかわろうとするときの手段の1つとして、英語を意欲的に活用する態度を育成することにある。そのために「どうすれば英語に慣れ親しむことができるか」「どんな英語活動であれば楽しんで取り組めるか」を研究の核ととらえ、研究主題を「自分を進んで表現することができる児童の育成」と題し、その主題に迫るために、ALTや協力員との一層の連携、ALT主導の英語活動と学級担任主導の英語活動との相互関係、協力員の役割や学級担任との連携などに視点を置き、小牧市の拠点校として他校でも活用できる研究実践に取り組んでいる。

イ 年間計画

<授業時数>

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
19年度	15 (10)	15 (9)	35 (15)	35 (15)	35 (14)	35 (15)
20年度	10 (5)	10 (5)	20 (10)	20 (10)	35 (17)	35 (17)

※ () 内は学級担任T1・協力員T2で行う授業数、残りの時間はALTがT1・学級担任がT2で行う授業

英語活動年間活動計画一覧表

(第5学年)

月	題材名	言語材料		時
		語彙	基本フレーズ等	
4	はじめまして	・great ・good ・OK ・terrible ・sleepy ・sick ・thirsty ・tired ・not so good ・spring ・summer ・fall ・winter	・How are you ? ・I'm (気持ち). ・What season do you like? ・I like (季節) .	3
5	誕生日はいつ	・January ・February ・March ・April ・May ・June ・July ・August ・September ・October ・November ・December	・When's your birthday? ・It's in (月).	2
	今何時 60までの数	・1 ・2 ・3 ・4 ・5 ・6 ・7 ・8 ・9 ・10 ・11 ・12 ・13 ・14 ・15 ・16 ・17 ・18 ・19 ・20 ・21 ・22 ・23 ・24 ・25 ・26 ・27 ・28 ・29 ・30 ・31 ・35 ・40 ・45 ・50 ・55 ・60	・What time is it? ・It's (時刻) .	2

月	題 材 名	言 語	材 料	時
		語 彙	基本フレーズ等	
6	復習をしよう	「はじめまして」「誕生日はいつ」「今何時」「60までの数」の復習		2
	時間割表を作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・art ・English ・Japanese ・music ・P.E. ・science ・social studies ・math ・recess ・after school ・cleaning time ・lunch time 	<ul style="list-style-type: none"> ・What subject do you like? ・I like (教科). ・What time is(教科) ? ・It's (時刻) 	2
7	学校を案内しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・school ・classroom ・gym ・teacher's room ・music room ・cooking room ・science room ・playground ・nurse's room ・library ・eraser ・blackboard ・notebook ・paper 	<ul style="list-style-type: none"> ・Where's the teacher ? ・In the(部屋の名前) . ・Where's the (物の名前) ? 	2
9	復習をしよう	「時間割表を作ろう」「学校を案内しよう」の復習		2
	学校にある物は	<ul style="list-style-type: none"> ・book ・blackboard ・notebook ・eraser ・paper ・pen ・glove ・pencil ・pencil case ・cards ・in ・on ・under ・behind ・by ・in front of 	<ul style="list-style-type: none"> ・Where's the(pen)? ・It's (under)the notebook. 	2
10	どこにある	<ul style="list-style-type: none"> "school rooms" "school things" "my things" ・door ・window ・lockers ・file ・box 	<ul style="list-style-type: none"> ・Where's my(pen)? ・It's in the(pencil case). 	2
	外国の文化を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・throw ・catch ・drop ・bounce ・bowl ・kick ・inside ・outside ・out ・safe ・deal ・swap 	<ul style="list-style-type: none"> ・Turn over ・One more please ・How many ? 	1
11	復習をしよう	「学校にある物は」「どこにある」「外国の文化を知ろう」の復習		1
	今日の給食はなに	<ul style="list-style-type: none"> ・days of the week ・bread ・rice ・dessert ・fish ・fruit ・meat ・milk ・miso soup ・vegetables ・breakfast ・lunch ・dinner 	<ul style="list-style-type: none"> ・What's for(lunch)? ・It's (meat). 	2
12	放課後にすることは	<ul style="list-style-type: none"> ・go home ・listen to music ・play(TV games) ・play(sport) ・play(with my friends) ・go home ・study ・watch TV ・read ・sleep ・ride a bicycle ・play the piano 	<ul style="list-style-type: none"> ・What do you do after school? ・I go home and (play TV games). 	2
	メリークリスマス	<ul style="list-style-type: none"> ・present ・Christmas tree ・reindeer ・Santa Claus ・sleigh ・decorations ・stocking ・snowman ・star ・toys ・chimney ・cookies ・candle 	<ul style="list-style-type: none"> ・I want a (物の名前). 	1
1	復習をしよう	「今日の給食はなに」「放課後にすることは」の復習		3
2	劇をしよう	既習内容を使った劇をする		4
3	劇をしよう	既習内容を使った劇をする		1

題 材 Numbers 1-60 - What time is it ? -

指導の力点

言い慣れていないため、発音に自信がない「11」「12」、言い間違えたり、聞き取りにくかったりする「15」と「50」は、カードを掲示しながらT2の発音を何度も聞かせ、繰り返し発音させることで覚えさせたい。“What time is it ?”“It's (12:25)”は、一人一人が話す機会を多くもてる2つのゲームを通して慣れ親しませ、その中で互いに聞き合う楽しい雰囲気をつくって、活動のねらいを達成させたい。

活動過程

学 習 活 動	T1(HRT)・T2(VT) の 活 動	評 価
1 Hello time あいさつをする。 全員：Stand up ! It's English time. Good afternoon , Horiyama sensei and Akao sensei. T1 : Good afternoon everyone. T2 : Good afternoon everyone. T2 : How are you ? 全員 : I'm great / good / OK/ not so good . T2 : Oh no ! What's up ? not so good の児童 : I'm sleepy / terrible / tired / sick . 全員 : How are you ? T1T2 : I'm great / good / OK / not so good .	T1 : Please come in. T2 : 教室に入る。	大きな声を出しているか。(観察)
2 Song time 「Numbers」の歌を歌う。	T1 : Let's sing a song! ・数字カードを掲示する。 ・CDをかける。 T1・T2 → いっしょに歌う。	大きな声を出しているか。(観察)
3 Today's aim 本時の活動の目当てを知る。	T2 : The aim of today's lesson is 「What time is it ?」. T1 : 今日の日当ては。 What time is it ? 時刻を聞いたり答えたりしよう。 T1 → 目当てを黒板に掲示する。	注意して聞いているか。(観察)
4 Practice time Numbers 0 1 ~ 12 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60	T2 : Let's practice numbers! T1 : 数字の練習をしましょう。 Listen carefully. T2 : Repeat after me. ・T2 → 発音する。 ・T1 → カードを掲示する。	大きな声を出しているか。(観察)
5 Activity time Karuta (1) 先生と代表児童の Skit を見て、ゲームの仕方を理解する。	T1 : Let's play 'Karuta'. Listen carefully. ・代表の児童2名を前に出す。 T2 : Spread the cards on the desk. Hands on your head. What time is it ? It's 12:25. T1 : Ready steady go! T2 : Touch the card. It's your card. ・T1 → 日本語で説明	注意して聞いているか。(観察)

- ・ 4人(5人)グループをつくり、配られたカードを机上に並べる。
- ・ 全員頭の上に手を置いて、“What time is it ?”と聞く。
- ・ T2が“It's ~.”と答えるのでその答えに合うカードを取り合う。

学 習 活 動	T1 (HRT) ・ T2 (VT) の 活 動	評 価
(2) ゲームをする。	T1 : Make groups of 4 . T1 : Hands on your head. 全 : What time is it ? T2 : It's ~ . ・ 伝言ゲームに使う時刻を中心に言う。 ・ カードが少なくなるまで続ける。 T2 : Count your cards. T1 : 取れたカードの数を数えましょう。 全 : 1 , 2 , 3 . . .	いろいろな数字に慣れることができたか。 (観察)
6 Practice time 時刻の聞き方と答え方の練習をする。 ・ What time is it ? ・ It's (12:25).	T2 : Let's practice the Time! T1 : 時刻の聞き方や答え方を練習しましょう。 Listen carefully. T2 : Repeat after me. ・ T2 →発音する。 ・ T1 →カードを掲示する。 ・ T1 →時計を掲示し、針を示す。 ・ T1 →体で針をつくる。	時刻の聞き方や答え方になれることができたか。(観察)
7 Activity time Gesture-Row race (1) ゲームの仕方を理解する。	T1 : Let's play 'Gesture-Row race'. Listen carefully. T2 →英語で説明する。 T1 →日本語で説明する。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ T1 が 1 番後ろの席に時刻が書かれたカードを配る。 ・ 後ろから 2 番目の児童は、後ろの児童に "What time is it ?" と聞く。 ・ 聞かれた児童は "It's ~ ." でカードに書かれた時刻を答える。 ・ 同じ方法でカードの時刻を前へ伝言して送っていく。 ・ 列の 1 番前の児童は、伝言された時刻の針を体でつくって示す。 </div>		
(2) ゲームをする。	・ 縦の列で行う。 ・ 様子をみながら、2～3回行う。 T2 →伝言する時刻を知らせる。 T1 →ジャッジをする。 T1T2 →上手に発音できない児童の支援をする。	ゲームを通して時刻を答えることができたか。 (観察)
8 Comment time (1) 今日の学習を振り返り、振り返りカードに記入する。 (2) 発表する。	T2 : Write your feedback card. T1 : 振り返りカードに、今日の目当てに対して自分が頑張ったことを書きましょう。 T2 : Finish! Put your pen on the desk. What did you write ? Please say yes! T1 : 発表しましょう。 T1T2 : Good job!	習った英語を使って楽しくコミュニケーションをとることができたか。(振り返りカード・発表)
9 Good-bye time あいさつをする。 全員 : Stand up. Thank you Horiyama sensei and Akao sensei. See you next time. T 1 ・ T 2 : Thank you everyone. T 2 : See you next time.		

* HRTは学級担任、VTは補助員を表す

(2) 大城小学校の英語活動

ア 英語活動の実際

大城小学校では、1, 2年生が年間3時間、3～6年生は年間19時間の英語活動を行っており、基本的にはALT主導で、協力員と学級担任が活動と一緒にいるティーム・ティーチングで行っている。内容としては、「歌やゲームなど英語に親しむ活動」「簡単なあいさつや自己紹介の練習」「単語の発音練習」など、ALTが所属する民間英語講師派遣会社のカリキュラムを基に活動を行っている。

今年度、「小中連携による外国語活動の在り方に関する研究」に参加することになり、拠点校である桃ヶ丘小学校の英語活動を参考にし、9月からは6年生で、ALT訪問時以外にも学級担任が主となる英語活動を行っている。他の学年についても、12月までに学級担任主導の英語活動を、各クラスで行う予定である。

学級担任主導の授業を行う場合、その直前に行ったALTの授業の復習になるようにしているが、同じ活動の繰り返しにならないように、ゲーム等に工夫を施して行っている。

イ 年間計画

月	題 材 名	
	5 年 生	6 年 生
4	Nice to see you again. (greetings / seasons)	This is my friend... (greetings / introducing a friend)
5	It's my birthday. (months of the year)	My family (family / third person / tense)
6	Let's count to 100. (numbers 1-100 / time)	He likes pizza, too. (third person / verbs)
7	It's English time! (school subjects)	Where is he from ? (countries of the world)
9	It's in the science room. (school rooms)	I live in Japan. (around Japan)
10	Happy Halloween (Halloween)	Trick or Treat! (Halloween)
11	It's on the desk. (school things / prepositions)	Around the world (around the world / languages)
12	Merry Christmas (Christmas)	Merry Christmas (Christmas)
1	What's for lunch ? (school lunch)	This is me. (review / final self introduction)
2	What do you do ? (after school)	This is me, again. (review / final self introduction)
3	Review (final review)	Review (final review)

学 習 活 動	T1 (HRT)・T2 (VT) の活動
<p>1 Hello time 先生と始まりのあいさつをする。 日直:Stand up. Good morning. 全員:Good morning. 日直:How are you? 全員:How are you? 全員:I'm great / good / sleepy / tired / sick.</p>	<p>T1: Let's start. T1: Good morning, everyone. T2: Good morning, everyone. T1: I'm OK. T2: I'm good. How are you?</p>
<p>2 Question time (1) 質問に答える。 児童:It's Thursday. 児童:It's (sunny / cloudy /rainy.) (2) Cross game ①ゲームの仕方を理解する。 ②ゲームをする。</p>	<p>T1:What day is today? T2:How is the weather today? T1:Let's play Cross game. This line, stand up please. T2:What is this? ・ 挙手をして答えられたら座る。 ・ 最後に残った児童がいる横列の児童が立つ</p>
<p>3 Today's aim 本時の活動の目当てを知る。</p>	<p>T1:The aim of today's lesson is Halloween.</p>
<p>4 Practice time Halloween Jack o'lantern / vampire / witch / bat / mummy / trick or treat.</p>	<p>T2:Let's practice Halloween words. T1:ハロウィーンに出てくる単語の練習をしましょう。 T2:Repeat after me. ・ T2=発音をする。・ T1=カードを掲示する。</p>
<p>5 Activity time (1) Cross game ①ゲームをする。 (2) Jeopardy game ①ゲームの仕方を理解する。 ②ゲームをする。 児童:I want ___ for ___.</p>	<p>T1:Let's play Cross game. This line, stand up please. T2:What is this? T1:Next game is Jeopardy game. Make 6 groups. ・ サイコロを振り、出た数字の班が答える。 ・ 班で問題を選び、答えると点数がもらえ、答えられなければ他の班が答えられる。 T1T2:発音が苦手な児童への支援をする。</p>
<p>6 Comment time (1) 今日の学習を振り返り、振り返りカードに記入をする。 (2) 発表する。</p>	<p>T2:Write your feedback card. T1:振り返りカードに、今日の目当てに対し自分が頑張ったことを書きましょう。 T2:Finish. Put your pen on the desk. What did you write? T1:書いたことを発表しましょう。 T1T2:You did a good job!</p>
<p>7 Good-bye time 先生と終わりのあいさつをする。 全員:Stand up. 日直:Thank you very much. 全員:Thank you very much. 日直:See you next time. 全員:See you next time. Bye-bye.</p>	<p>T1:Stand up. T1T2:Thank you, everyone. T2:See you next time. Bye-bye.</p>

* H R Tは学級担任、V Tは補助員を表す

3 連携への取組

(1) 連携会議の開催

ア 第1回小中連携会議（6月19日）

「第1回小中連携による外国語活動の在り方に関する研究の研究協力校連絡会」（総合教育センター5月30日開催）での提案を受け、桃陵中学区3校（桃陵中学校・桃ヶ丘小学校・大城小学校）の第1回小中連携会議を6月19日に開催した（参加者は各校の校長・教務・英語教員の計8名）。この会議では総合教育センターからの提案事項（下記）を基に、その時点で可能と思われる英語活動の連携につながる具体策を検討した。



写真1 第1回小中連携会議の様子

「総合教育センターからの提案」

- ・ 互いの英語活動の教授法を理解し合うために、月に1度の小中連携会議を開催する。
- ・ 互いに授業を参観する機会をつくり、さらに授業後に研修会などを併せて開催する。
- ・ 市の教科指導員やその他の指導的な立場の先生を招いた研修会等を合同でもつ。
- ・ 各学校の教材、授業を記録した写真や動画等を共有できるシステムをつくる。
- ・ 児童・生徒の個のカルテを作成し、次の学年へ引き継ぐ一貫した英語教育の実現を図る。
- ・ 小中連携の研究を進めるに当たっての現状の把握及び研究成果の変容を見るために、児童生徒並びに教員に対してアンケートを実施する。

○ 今年度の方向性

第1回小中連携会議において、確認された事は、「文部科学省の研究委嘱を受け、昨年度から英語活動に取り組んでいる桃ヶ丘小とまだほとんど始まっていない大城小との間には、英語活動への取組に大きな差があること」であった。併せて、「桃陵中の英語担当教員には小学校の英語活動について、しっかりとしたイメージがないこと」も分かった。

また、総合教育センターからの提案に関する検討においても問題点が挙がった。第一に、合同の授業参観やその後の研修会等の設定が難しいということである。この時点では3校とも現職教育計画は進んでおり、新たに研修会等を実施することは困難であった。第二に、英語活動はまだ始動の段階であり、現状として児童個々のカルテを作成し、ポートフォリオ型評価の継続は困難との結論となった。

そこで、小学校2校と中学校1校の連携のスタートとしては、桃ヶ丘小の現時点の英語活動パターンを基本として考えていくことを確認し、その上で、できることから進めていくこととなり、以下のように取組を開始することとした。

- ・ 大城小と桃陵中英語教員の時間を調整し、桃ヶ丘小の日常の英語活動の授業参観を実施する。
- ・ 授業参観後に感想等を集約し記録する。
- ・ 桃ヶ丘小の授業研究計画を2校に伝え、研究授業への参観を行う。
- ・ 大城小英語活動の参観は準備ができ次第（2学期中盤以降より）開始する。ただし、学級担

任主導による英語活動がまだ開始されていないのが現状なので、3学期以降になることもやむを得ずとする。

- ・ 桃ヶ丘小の「英語活動レッスン・プラン」「使用している主なクラスルーム・イングリッシュ例」を2校に伝え、特に、大城小はそれを基にした英語活動を進めていく。
- ・ 桃ヶ丘小で使用している教材を紹介していく。
- ・ 桃陵中では小学校英語活動の現状をつかみ、中1の英語指導の在り方を検討する。
- ・ 小学校2校の英語活動を進めるに当たって、桃陵中の英語教員からの助言を受ける。

イ 第2回小中連携会議（10月30日）

第2回小中連携会議（参加者は各校の校長・教務・英語教員の計8名）では6月からの実践についての意見交換、まとめ、各校の現状報告、これからの進め方についての検討を行った。

その中で、今後も互いの授業参観をできるだけ行くこと（特に桃陵中英語教員の小学校参観）、来年度には互いの研究協議会へも参加できるような日程調整をしていくこと等が話題となった。



写真2 第2回小中連携会議の様子

(2) 授業参観の実施

ア 桃ヶ丘小の英語活動授業の参観

- ① 5月31日（土）学校公開日（1・2校時 4の1で学級担任と協力員のTT, 6の2で学級担任）

大城小から1名参観

- ② 6月5日（木）学校訪問（5校時 特設授業 5の3 3の1）

英語活動特設授業 5年3組（学級担任と協力員のTT）

題材 Numbers 1～12, 60までの5跳びの数の言い方に慣れる。
時刻の聞き方, 答え方に慣れる。

言語教材 Hello. What time is it? It's (12:25).

大城小から3名参観, その他の小学校教員多数参観

(英語活動小牧市拠点校として全市へ公開しているため)



写真3 5の3 授業の様子

- ③ 6月25日（水）通常授業（2校時 6の2で学級担任とALTのTT）
 桃陵中から1名参観



写真4 6の2 授業の様子

- ④ 7月4日（金）通常授業（3校時 5の2で学級担任と協力員のTT）
 大城小から1名参観
- ⑤ 7月14日（月）通常授業（3校時 5の1で学級担任と協力員のTT）
 大城小から2名参観
- ⑥ 7月16日（水）通常授業（3校時 6の3で学級担任と協力員のTT）
 大城小から1名参観
- ⑦ 10月16日（木）研究授業（5校時 5の1で学級担任と協力員のTT）

英語活動研究授業 5年1組（学級担任と協力員のTT）

題 材 School Things / Prepositions 学校で使う物の場所を伝える。

言語教材 Where's the----?
 book, pencil case, pencil, pen, paper, notebook, blackboard,
 eraser, door, desk, window, in, on, under, by, in front of, behind

桃陵中――9名

その他（他校の教員 英語活動小牧市拠点校として全市へ公開している）



写真5 5の1 授業の様子

- ⑧ 11月 1日（土）学校公開日（1～3校時 3の3・1の2・5の2で学級担任と協力員のTT）
 大城小から4名参観

イ 桃ヶ丘小への授業参観後の感想（大城小・桃陵中の教員から）

時刻の聞き方、答え方を知る活動では、まず1～60の数字の言い方を練習した。中学生でも間違えやすい15と50などを、児童の発音を聞きながら何度も練習し、きめ細やかな発音の指導がされていることが分かった。担任の先生や協力員の方の指示はほとんど英語で、クラスルーム・イングリッシュも豊富に取り入れられ、児童もきちんと理解していた。授業のテンポは速く、中学校のALTの授業とほとんど変わらない。体を使って時刻を表す活動は、児童も楽しそうに取り組んでおり、英語活動ならではの感じがした。このような活動を行ってきている桃ヶ丘小学校と足並みをそろえるためには、本校ではかなりの研修が必要だと感じた。

（6月5日 大城小）

様々な国名の言い方を学び、自分の出身国を述べる言い方の学習を参観した。ウォームアップではフォニックスをスピーディにリピートしていたが、隙すきを与えないテンポのよさに驚いた。恐らく、これまでに何度も発音練習をしてきているのであろう。また、いろいろな国の「こんにちは」という言い方を提示していた。英語だけでなく、フランス語、ポルトガル語、中国語など多言語・多文化を知り、興味をもたせるような授業であった。今回の授業で扱う言語学習内容は多くはないが、1つの学習事項を様々な角度からの活動によって、繰り返し反復練習しているのが印象的であった。

（6月25日 桃陵中）

全児童が楽しそうに活動している姿を見て、こちらもさすがに楽しくなった。中学校の場合、ALTとのTTの時には楽しそうに活動できているが、普通の授業では読んだり書いたりする活動も多く、英語がちんぷんかんぷんで拒否反応を示す生徒も少なくない。入試がある関係で楽しい活動ばかりはさせてもらえないのが現状。是非とも、小学校で「英語は楽しいものだ」という考えを植え付けていただき、中学校へ入学させていただけることを期待します。

落ち着いた雰囲気の中で楽しく活動ができていたように思う。先生と児童との関係がうまく取れており、指導も行き届いているのが伝わってきた。授業に関しては子供たちが自由に活動するには教室が狭すぎるように思った。机・椅子等をなくし、床に座って行ってみてはどうか。真ん中に机を1つ置き、そこでいろいろなものを隠したりして活動させると、in front of や behind の感覚が分かりやすいかと思う。by は使える範囲が広いので難しい。絵ではなく実物の方が位置をつかみやすいように感じた。子供たちの発音がとてもきれいなことに感心した。しかし、一方で単語によっては日本語調の発音になっているものもあった。

子供たちが皆、とてもよい表情で生き生き学んでいる姿を見て感心した。絵があり、感覚的に話しているものの、それが今後どれだけ定着するのか、よく分かりません。小学校英語活動が目指すものが何なのか勉強不足で分かりませんが、中学校に入学して、しっかりした知識として理解させなければならなくなった時、どうなるのだろう。中学校としても、英語嫌いをつくらぬよう工夫しなければならないと感じた。

（10月16日 桃陵中）

(3) 小牧市の英語教育推進活動

小牧市では小学校英語の導入に先駆け、平成18年度より「小学校英語教育推進委員会」を立ち上げ、文部科学省の動向を見ながら、市としてどのように取り組んでいくかを検討し、カリキュラムや指導方針の作成などに取り組んでいる。以下に、平成20年度推進委員会の検討内容を簡単に示す。

(平成20年12月現在)

＜平成20年度英語教育推進委員会中間報告（抜粋）＞

1 小学校英語活動の目標

- 国際コミュニケーション力＜共生・自己決定・行動力・個の確立＞の素地づくり
そのために育てたい資質
- ① 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ② 自分の意思表示ができる。進んで他人の思いや考えを知ろうとする。
- ③ 外国の言語や文化に触れ、日本の文化との違いを認め、理解したり、日本の文化を発信したりすることができる。

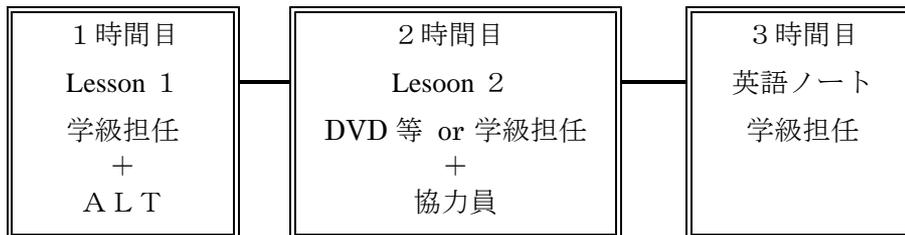
2 カリキュラムの実施

- 5, 6年生から年間35時間で導入。1～4年は各学校の実態に応じる。

3 カリキュラムの流れ

- 民間英語講師派遣会社のカリキュラムの流れを生かした授業を中心に行う。
(ALTがいない時間にはDVD・CDなどの視聴覚教材を使って授業ができるよう準備)

＜各単元（1モジュール3時間＋復習）の流れ例＞



4 一人一人の活動を充実させる児童の活動目標と評価

Evaluation Points ＜評価ポイント＞

Eye Contact	相手の目を見て会話をしよう
Positive Attitude	積極的に伝えよう（表情豊かに、ジェスチャーを使って）
Clear Voice	はっきりした声で伝えよう
Listen and Reply	相手の話をしっかり聞き、相づちを打ったり返事をしたりしよう
Smile	笑顔で会話をしよう

＜振り返り＞

小牧市の目指す学び「仲間とのかかわり」を大切に、共に高めあう学びを成立させるためにも、授業中の相互評価、授業後の振り返りを行っていく。

5 小中の連携・中学校で「もっと英語をやりたい」と思う生徒を育てるために

- ・英語嫌いを作らない
- ・自己表現活動の重視
- ・段階的な文字導入

6 5・6年の各月の単元計画

5 年 生		6 年 生	
4 月	世界の人と伝え合おう (3)	4 月	友達を紹介しよう・文字で遊ぼう (3)
ALT	あいさつの会話をしよう	ALT	今の気持ちを伝え合おう
DVD	季節を使ってインタビューしよう	DVD	友達を紹介しよう
英ノート	世界のこんにちはとジェスチャーを知ろう	英ノート	アルファベットで遊ぼう (大文字)
5 月	自己紹介をしよう (3)	5 月	家族を紹介しよう・文字で遊ぼう (3)
ALT	月の言い方・生まれた月は?	ALT	家族の紹介の仕方は?
DVD	月の言い方・誕生日はいつ	DVD	家族の紹介をしよう
英ノート	自分のことを紹介しよう	英ノート	いろいろな文字があることを知ろう (小文字)
6 月	数で遊ぼう (4)	6 月	友達を紹介しよう・カレンダーを作ろう (4)
ALT	60までの数・今何時?	ALT	自分や友達の持ちものや遊びのことを話そう
DVD	今何時? 100までの数	DVD	友達を紹介しよう
ALT	復習をしよう	ALT	友だちのことをみんなに紹介しよう
英ノート	数で遊ぼう	英ノート	カレンダーを作ろう
7 月	時間割を作ろう (3)	7 月	世界のことを知ろう (3)
ALT	何の教科が好き?	ALT	世界の国とあいさつを知ろう
DVD	英語の時間は何時?	DVD	どこの出身? 教えてあげよう
英ノート	時間割をつくろう	英ノート	復習をしよう
9 月	学校を案内しよう (3)	9 月	日本を紹介しよう (3)
ALT	先生のいる所を教えてあげよう	ALT	日本のものを教えてあげよう
DVD	どの教室にあるか教えてあげよう	DVD	日本のものを英語で教えてあげよう
英ノート	私の持ち物があるところは?	英ノート	日本を紹介しよう
10 月	色々な国のことを知ろう (3)	10 月	道案内をしよう (3)
ALT	いろいろな国の文化は?	ALT	建物やお店の言い方を知ろう
英ノート	いろいろな国の衣装を知ろう	英ノート	方向や動きの言い方を知ろう
英ノート	外来語を知ろう・何が欲しいの?	英ノート	教室で道案内ゲームをしよう
11 月	場所を教えてあげよう (4)	11 月	行ってみたい国を紹介しよう (4)
ALT	どの位置にあるの?	ALT	いろいろな国の有名な場所を紹介しよう
DVD	どこにあるの?	DVD	行ってみたい国の有名な場所を知ろう
ALT	いろいろな教室の言い方を覚えよう	ALT	自分の行ってみたい国のことを紹介しよう
英ノート	クイズ大会をしよう	英ノート	友達の行きたい国のことを知ろう

5 年 生		6 年 生	
1 2 月	探し物はどこ？クリスマス (3)	1 2 月	自分の国をつくろう！ (3)
A L T	オリエンテーリングをしよう	A L T	自分の国をつくろう！
D V D	(復習) 探し物をしよう	D V D	つくった国を紹介し合おう
英ノート	クリスマスを楽しもう	英ノート	自分のつくった国をみんなに紹介しよう
1 月	ランチメニューをつくろう (3)	1 月	劇をしよう (3)
A L T	食べ物の言い方は？	A L T	「大きなかぶ」の物語を聞こう
D V D	今日の給食はなに？	D V D	「大きなかぶ」の劇をしよう
英ノート	ランチメニューをつくろう	英ノート	オリジナル「大きなかぶ」の劇をしよう
2 月	放課後にすることは？ (3)	2 月	自分を紹介しよう (3)
A L T	放課後にすることは？	A L T	自己紹介の準備をしよう
D V D	放課後にすることを教えよう	D V D	自分を紹介しよう
英ノート	復習をしよう	英ノート	自分の1日を紹介しよう
3 月	英語で遊ぼう (3)	3 月	自分の夢を紹介しよう (3)
A L T	劇で使う言葉は？	A L T	いろいろな職業の言い方を知ろう
D V D	劇をしよう	D V D	なりたい職業を尋ねよう
英ノート	英語コミュニケーションすごろく	英ノート	将来の夢を紹介しよう

※ DVDは小牧市が英語活動用に作成中

4 成果と課題

6月(第1回小中連携会議)から小中連携での取組を進めてきたが、小学校での英語活動の授業参観やその進め方についての情報交換を始めたばかりというのが現状である。ここで、これまでの取組について、振り返る。

(1) 小学校間の連携

小学校間での連携では、文部科学省の研究拠点校として平成19年度より学級担任中心での英語活動に取り組んできた桃ヶ丘小と、小牧市より派遣されているA L Tによる授業のみで英語活動を実践してきた大城小とでは、児童・教員ともに意識の差があることは明らかである。その点を踏まえた上で、授業参観の実施など、できることから連携の取組を進めてきた。

大城小では新学習指導要領への移行を視野に入れて、今年度中に学級担任主導での英語活動の基礎づくりに取り組んでいく計画であった。6月の第1回連携会議での話し合いはその計画を始動させる起爆剤となり、その後、桃ヶ丘小の英語活動授業への参観、英語活動部会の設置、クラスルーム・イングリッシュ研修会の実施、学校訪問での英語活動公開授業の設定等、英語活動への取組が進んできている。

桃ヶ丘小では年度当初の計画に従って研究を進めているが、研究授業だけでなく、普段の英語活動

授業の参観もあり、小牧市の英語活動推進の拠点校としての役割の重大さ・重要性を再確認している。大城小との教材等の共有では「桃小レッスン・プラン」（平成19年度の各学年でのすべての授業プラン集）や「クラスルーム・イングリッシュ例」等を提供するにとどまっているが、今後、大城小の英語活動授業の参観が可能になった時点から、より具体的な授業プランの検討を進めることができると考えている。

(2) 小中学校間の連携

小中学校間の連携については、桃ヶ丘小の授業参観を行っただけで、中学校英語教員に小学校英語活動のイメージをつかんでもらう程度になった。授業参観後の感想には「小学校英語の目指すものが何なのか勉強不足で分からない」「Where's が正しく書けていない児童がちらほらいた」といったものが見られた。今後は授業参観を手掛かりとして、小学校で目指す英語活動を中学校英語教員にしっかりととらえてもらうことに重点を置きながら、英語活動の進め方や指導内容、クラスルーム・イングリッシュの活用などの面では中学校英語教員の視点でのアドバイスを受け、指導に役立てていきたいと考えている。また、中学校としても小学校での英語活動の内容やその授業形態を踏まえた指導を進めていきたい。

(3) 小牧市全体での取組

小牧市全体としての取組が本格的に始動しており、「小学校英語教育推進委員会」によって小牧市の英語活動カリキュラムも作成されつつある。また、来年度以降、全市的に進んでいくと思われる小学校英語活動の中にも小中連携にかかわる取組が出てくるとと思われる。今後は桃ヶ丘小と大城小、そして桃陵中との小中連携を継続しながら、全市的な取組とも歩調を合わせていくこととなる。

小中連携による外国語活動（武豊地区）

—小中間の交流・授業参観と改善を通して—

1 学校紹介（衣浦小学校・富貴小学校・富貴中学校）

(1) 各学校の沿革

年月	衣浦小学校	富貴小学校	富貴中学校
1947. 4		富貴村立富貴小学校と改称	富貴村立富貴中学校開校
54. 4		武豊町立富貴小学校と改称	武豊町立富貴中学校に改称
70. 4	衣浦小学校開校		
97			中学校にALT配置
2000	オーストラリア・ケアンズ セントザビア 校との交流開始		オーストラリア・ケアンズ セントザビア 校との交流開始
03	英語活動開始		学力向上フロンティア事業 研究委嘱（2年間）

(2) 現在のクラス数・児童生徒の数

学校	児童生徒数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計	その他
衣浦小	604人	3	3	3	3	3	3	2	20	約半数が富中へ
		97	101	89	110	96	111		604	
富貴小	528人	3	3	3	3	3	3	2	20	全員が富中へ
		85	100	84	85	81	87	6	528	
富貴中	378人	4	4	3				2	13	
		127	117	115				10	379	

2 児童生徒の現状

(1) 衣浦小学校

元気で活発な児童が多い。昨年度まで、月曜日の朝の集いでALTによる英語の「ワンポイント・レッスン」を行っており、大きな声で発音する様子が見られた。

5年生男子は、自己中心的な児童や、話を聞くことやルールを守って行動することが不十分な児童も見られるが元気ではある。5年生女子は、仲のよい者同士が集まりグループ化も進んでいるが、概して、周りに気を使って慎重に行動している児童が多く見られる。男女を問わず、英語活動では、自信がない様子で、ゲームに消極的だったり、大きな声で発音できなかつたりする児童もいるが、英語に対する興味・関心は高い。

6年生男子は、休み時間に外で遊ぶなど活発な児童が多い。問い掛けへの反応もよく、パワーがある。6年生女子は、男子に比べて落ち着いた生活態度であるが、周りを見ながら慎重に行動する児童が多いため、英語活動ではややおとなしい印象がある。

(2) 富貴小学校

児童は、のんびりとした環境で生活していることもあり、やや積極性が足りない面もあるが、落ち着いている。学習に対しては、深く追究したり、自分で考えて問題を解決していこうとする面は弱い

が、与えられた課題には真剣に取り組む。高学年においては、何事にも意欲的に取り組む姿勢が強い。

5年生は、思考を要することや難しいことになると、なかなか粘り強く行うことができずにいるが、新しいことに対する興味は旺盛である。5年生から始まった英語活動については、興味をもって取り組んでいる。

6年生は、ほとんどの児童が集中して授業に取り組んでいる。特に、総合的な学習の時間等、自分で課題を見つけて取り組む学習には率先して励んでいる。ただ、教員からある程度の指示がないと、取組の方向が分からず、当初の意欲がなくなってしまうことが多い。児童はALTと楽しく英語活動に取り組み、無理なく自然な形で初歩の英会話に親しむことができている。

(3) 富貴中

数年前まで生徒指導面での問題を抱えていた生徒もいたが、近年は校内の雰囲気も落ち着き、授業規律も確立してきており、生徒は素直で明るい学校生活を送っている。

特に1年生は、男子は元気があり、女子はおとなしく控え目である。授業中もその様子が顕著で、英語の発音練習やコミュニケーション活動では授業の雰囲気づくりが要となっている。授業規律は確立しているものの、学習習慣は身に付いておらず、集中力が持続できない生徒もいて、学力差の広がりがかなり出始めている状況である。

3 外国語活動への取組

平成23年度から必修化される小学校の英語活動の教育目標は「コミュニケーション能力の素地の育成」である。この目標を達成するために、武豊町では、クラスの実態をよく知る学級担任が、T1(*1)としてクラスを統括し、T2(*2)であるALTが言語活動の中心となって授業を展開する等、学級担任とALTの役割を明確にして英語指導に当たることが大切であると考えている。それは、学級担任が前時までの復習やまとめをすることで、学習に対しての適切なレディネスや学習内容の振り返りができ、また、様々なアクティビティを知っているALTを中心に言語活動をすることで意欲化を図り、学習内容の習熟を図ることができるからである。そこで、本研究では、学級担任が中心となって英語授業を構成し、ALTの役割を明確に示すことで、小学校段階での英語教育のねらいに迫ろうと考えている>(*1 ティーム・ティーチングで主になる指導者 *2 ティーム・ティーチングで従になる指導者)

年間計画については、小学校間や学級間の差をなくしたいと考え、町独自のカリキュラムを作成している。(巻末資料)

<衣浦小学校の実践>

(1) 授業展開例

ア 目標

- ・気持ちを表す表現を進んで覚え、親しもうとしている。
- ・覚えた表現を使ってゲームに進んで参加しようとしている。
- ・“How are you ? ”の問いに対して、自分の気持ちを“ I'm ~.”で答えることができる。

イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項		
			HRT (T1)	ALT (T2)	
ウォームアップ・復習	1 あいさつと復習をする。 (1) 元気よくあいさつをする。 “Good morning.” “How are you?” (2) 5人の人とあいさつをする。 (3) 既習表現の復習をする。 ・数字・曜日・フルーツ ・“Do you like ~?”	7	<ul style="list-style-type: none"> ・児童とあいさつする。 “Good morning.” ・教室を回って5人にあいさつをするよう説明する。 ・教室を回って児童とあいさつする。 ・言えない児童のそばに行き一緒に発音する。 ・フラッシュカードを使って数字や色の名前を復唱させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童とあいさつする。 “Good morning.” 工夫1 ・教室を回って児童とあいさつをする。 ・HRTに続いて、児童と一緒に発音する。 	担任が中心となって実施する内容
言語材料への導入	2 本時の学習課題をつかむ。 気持ちを表す表現を知ろう (1) 気持ちを表す表現を知る。 ・hot ・angry ・sad ・cold ・hungry ・happy (2) “How are you?”“I’m ~ .”の言い方を練習する。	17	<ul style="list-style-type: none"> 進んで声を出して発音する。(観察) ・ALTに続いて児童と一緒に発音する。 ・ALTと共に会話のモデルを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表す表現を繰り返し練習させる。 ・HRTと共に会話のモデルを示す。 	ALTが中心となって実施する内容
言語活動	3 気持ちを表す表現を使ってゲームをする。 (1) Row race ・学習した気持ちを表す表現を、I’m ~.で言う。 ・後ろから前へ順番に言っていき、最初に言い終えた列を勝ちとする。 (2) “How are you?”game ・プリントしてある「気持ち」を一つ選び、○を付ける。 ・“How are you?”と尋ね、自分が色を塗った「気持ち」を答える人が見付かるまで、尋ねる。 工夫2	38	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの説明をする。 ・態度、大きな声の観点で評価・指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音の苦手な児童に指導する。 	ALTが中心となって実施する内容
まとめ	4 本時のまとめをする。 (1) pointing game をする。 ・教室の中に円を作る。 ・中心にいる児童が一人の児童を指し“How are you?”と言う。 ・指された児童は座り、両隣の児童が“I’m ~”と言う。 工夫3 (2) 授業の振り返りを記入する。 工夫4 (3) 終わりのあいさつをする。 “Good bye.” “See you.” 工夫5		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの進行を補助する。 ・態度、大きな声、視線の観点で評価・指導する。 進んでゲームに参加している。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの説明をする。 ・pointing game の説明をする。 ・ゲームの審判をする。 ・チャンピオンを全員の前で賞賛する。 	

* HRTは学級担任をあらわす

ウ 本時の評価規準

- ・進んで語句や表現の練習をしようとする。(観察)
- ・気持ちを表す表現を覚え、進んでゲームに参加している。(観察)
- ・気持ちを尋ねる表現と答える表現を理解し、正しく言える。(観察)

(2) 指導の実際と児童の反応

ア 学級担任が中心となって授業を構成・展開すること(工夫1)

新学習指導要領に示された「コミュニケーション能力の素地を育成」するということを、「積極的に会話しようとする」ととらえ、英語の授業において、大きな声で発音したり、相手の目を見ながら話したり、会話の要素が入ったゲームなどに積極的に取り組んだりすることであると考えた。そのために、児童に「自分も英語で会話ができそうだ」という自信や、「自分も英語で話したい」という思いをもたせることが必要である。そこで、児童をよく知っている学級担任こそが授業を構成・展開することによって、学習内容を習熟させ、自信をもたせることができると考えた。

イ 習熟を図るためのゲーム①(工夫2)

自分の気持ちを“I’m ~.”と表現することをALTと共に説明した後、“I’m ~.”の表現の習熟を図るためにRow raceゲームを取り入れた。このゲームは、列でチームになり、後ろの児童から前の児童へ順番に“I’m ~.”の表現を言っていき、全員が一番早く言えたチームが勝ちというものである。ゲームを取り入れることにより、児童は「ゲームに勝ちたい」という思いから、黒板に掲示していつでも参照できるようにしてあるフラッシュ・カードを見ながら、学習したばかりの気持ちを表す表現を意欲的に覚えた。ゲームを繰り返し行うことで、自分の気持ちを表現する“I’m hot.”“I’m angry.”などの表現を習熟することができた。

ウ 習熟を図るためのゲーム②(工夫3)

本時の学習内容をさらに習熟させるためには、“How are you?”“I’m hot.”と会話で答える練習が必要である。そこで、次の段階として、“How are you?”gameを取り入れた(資料1, 2)。このゲームでも、児童はクラスで「チャンピオンになりたい」という思いから、元気よく“How are you?”と尋ね、“I’m ~.”と答えるなど、積極的に会話に取り組んでいた。児童は楽しみながら繰り返し練習することにより、“How are you?”“I’m ~.”という表現を習熟することができた。

資料1 “How are you?” game の内容

- ①ワークシート上の気持ちを、1つ選び○を付ける。
- ②ペアを作り、相手に“How are you?”と尋ね、相手が“I’m ~ ”と答える。
- ③相手が答えた“I’m ~.”が自分の○を付けたものと一緒だったらYes、違ったらNoと答える。
- ④相手がYesと言うまで続ける。
- ⑤何回目にYesが出たかを記録し、スコアを書く。
- ⑥5回のゲームでスコアが少なかった人を勝ちとする。

資料2 “How are you?” game ワークシート

How are you? I'm....						
1						
2						
3						
4						
5						
Score:						

エ まとめのゲーム（工夫4）

本時のまとめとして、児童が熱中して取り組んでいる“pointing game”（資料3）を本時のまとめ用にアレンジした。児童は、本時の内容を思い出し、どの児童も“How are you?”と問い掛けられたことに対して、“I'm ~.”と返すことを復習でき、学習の定着を図ることができた。

資料3 pointing game の内容

“pointing game” How are you? version

- ①教室の中に全員で円をつくって座る。
- ②中心の児童が一人の児童を指し“How are you?”と言う。
- ③指された児童は座り、両隣の児童が“I'm ~.”と言う。
- ④早く言えた児童が勝ち、中心の児童と代わる。
- ⑤負けた児童は座る。

資料4 自己評価カード

Let's speak English!

年 月 日

☆授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう！
4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きな声で)	Eye Contact (相手の目を見て)	Activeness (積極的に)
/	Feelings(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Review activities	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(1)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

◎ (分かったことや、できるようになったことを書く)

【この資料は巻末に添付してあります】

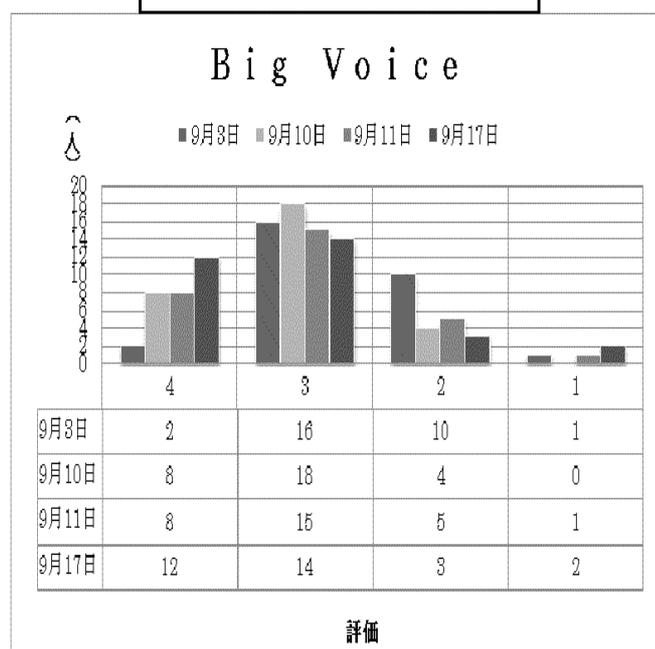
オ 学習活動の振り返り（工夫5）

児童が自分自身で英語活動を振り返ることで、次時以降への意欲を高めるために、自己評価カード（資料4）を取り入れた。“Big Voice”（相手に聞こえる大きな声を出したか），“Eye Contact”（相手の目を見て会話したか），“Activeness”（活動に積極的であったか）の3つの観点で振り返りをする中で、「相手の目を見てあまり会話ができなかったことが分かった」「活動に積極的になれた」など、活動を客観的に自分自身で振り返ることができている。

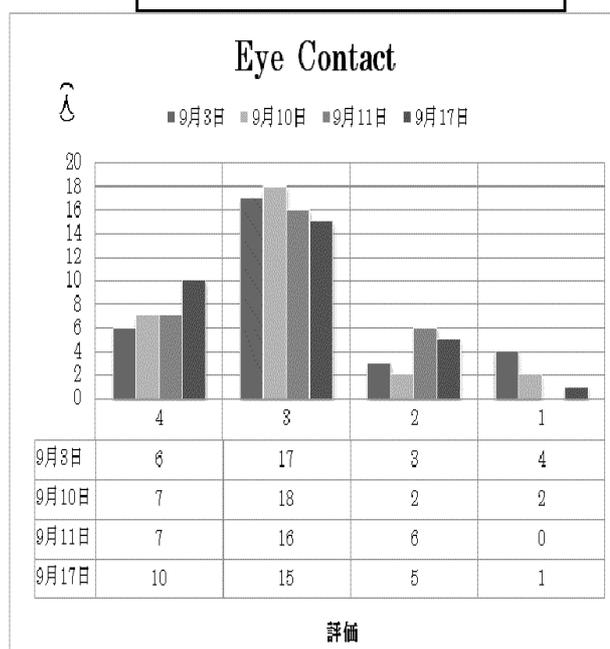
カ 自己評価の全体的傾向

“Activeness”では、自己評価が3（まあまあできた）の児童が増加し、2（あまりできなかった）の児童が減少した。“Eye Contact”では、4（よくできた）の児童が増加し、“Big Voice”では、4の児童が増加し、2の児童が減少した（資料5, 6, 7）。自己評価の結果から、自分自身の活動を振り返り、次時に向けて授業を受ける態度が改善されつつあることが分かる。

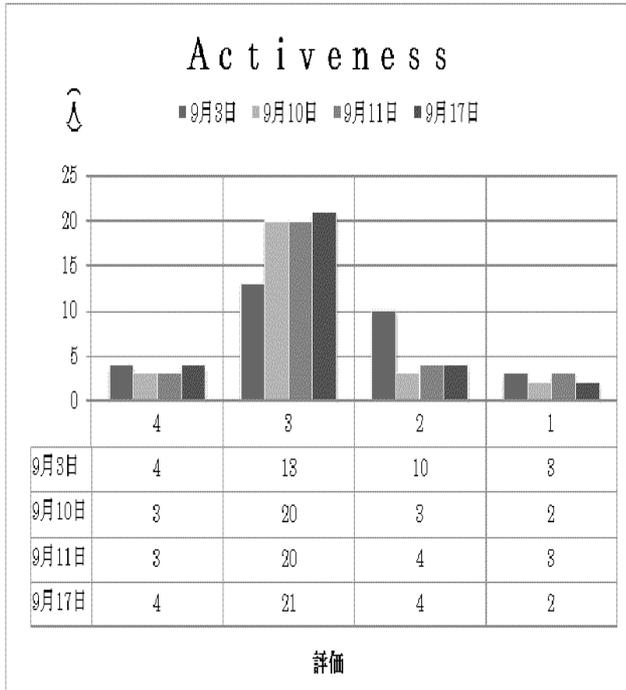
資料5 Big Voice の集計



資料6 Eye Contact の集計



資料7 Activenessの集計



キ 抽出児の変容

抽出児であるA児は、英語活動内容やゲームの理解度が上位の児童である。しかし、英語の活動を楽しいとは感じているものの、大きな声で発音できていなかったり、相手の目を見て会話できなかったりするなど積極的に活動できない児童である。

1回目の自己評価では、2（あまりできなかった）、1（できなかった）ばかりの評価だったが、4回目には3（まあまあできた）と評価が上がってきた。これは、自己評価カードをポートフォリオ的に活用して、自分自身を客観的に見つめ、次時に課題をもって取り組むことができたためだと考えられる。（資料8）

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・児童をよく知る学級担任がALTと打合せをしながら授業を構成・展開したことにより、児童に興味のあるゲームをアレンジして取り入れたり、ゲームをもう一度行うなど練習の回数を増やしたりすることで、本時の学習内容を習熟することができた。
- ・自己評価カードを活用したポートフォリオ型の評価を継続して取り入れることにより、児童が授業での活動を振り返り、次時以降の改善点を自分で探り、授業に臨む態度など改善することができた。

イ 課題

- ・中学校で文法・単語などの暗記や筆記に対して抵抗感をもたないために、少しずつ「書くこと」と結び付いた活動を考えることが必要である。
- ・ALTと綿密な計画を立て、頻繁に連絡を取るなど、学級間や学校間での学習内容の違いだけでなく、児童の到達状況の違いをなくす必要がある。

資料8 抽出児A児の自己評価カード

Let's speak English!



★授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう!

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/3	Weather School Lunch	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1
9/10	Vegetables	4・3・(2)・1	4・3・2・(1)	4・3・(2)・1
9/11	Feelings(1)	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1	4・3・(2)・1
9/17	School Lunch Feelings(2)	4・(3)・2・1	4・(3)・2・1	4・(3)・2・1

感想 (分かったことや、できるようになったことを書こう)

ゲームで遊ぶかから英語を分かりやすく学んでとても楽しかった

<富貴小学校の実践>

(1) 授業展開例

ア 目標

- ・英語で質問をしたり，答えたりすることに興味をもち，英語の表現に親しもうとする。
- ・教科の名前と言い方を覚え，進んでゲームに参加することができる。

イ 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項	
			HRT (T1)	ALT (T2)
あ い さ つ	1 始めのあいさつをする。 (1) T1, T2とあいさつをする。 T1:Good morning. C :Good morning, Mr. Ujiie and Carlos. T1:How are you? C :I'm fine, thank you. And you? T1:I'm good, too. (2)5人の人とあいさつをする。 T1:Let's communicate with 5 friends. You say,"How are you?" Let's start! C1:How are you? C2:I'm fine, thank you. And you? T1:OK. Sit down, please.	5	・児童とあいさつをする。	・児童とあいさつをする。
	前時の復習	2 既習の単語を復習する。 ・教科の名前 English, Japanese, math, science, art, P.E., social studies, music	8	・T2の後に続いて，児童と一緒に発音する。
言語材料への導入	3 本時の学習課題をつかむ。 「好きな教科は何ですか」と尋ねたり答えたりしよう (1) 2つの文型を知る。 “What's your favorite subject?” “I like math.” (2) 文型を使って練習をする。 ・尋ね方や答え方をくり返し練習をする。 ・T1, T2の質問に答えたり，尋ねたりする。	20	・ジェスチャーを交えながら会話のモデルを示し，文型の理解を図る。 ・理解するのが難しい児童のそばに行き，一緒に発音する。	・ジェスチャーを交えながら会話のモデルを示し，文型の理解を図る。 ・英語で発音の模範を示しながら，文型を繰り返し練習させる。
	言語活動	4 学習した文型を生かして，ゲームをする。 (1) クリスクロスゲームをする。 ・教員からの質問に手をあげて答える。 “What's this?”“What's Rika in English?” “What's Music in Japanese?” (2) メモリーゲームをする。 ・教員の見本を見て，ゲームを理解する。 ・席の前後でペアを作る。 ・Aのワークシートをもらった児童は，書かれている番号と，それに対応した教科を記憶する。 ・ペアでゲームをする。 A: Number 4. What's your favorite subject ? B: I like music.	40	・列指名をし，答えられた児童から座らせていく。 ・ゲームの見本を行い，理解を図る。 ・ゲームをしやすいように，机を向い合わせる。 ・単語を記憶する時間を1分間与える。 ・ゲームを理解できていない児童のそばに行き，支援をする。

ま と め	<p>・記憶する人と質問をする人を交代する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。 (1) 本時で使った単語をワークシートに書く。 (2) 授業の振り返りを記入する。 (3) 終わりのあいさつをする。 T2: Good bye, everyone. C : Good bye, Carlos. T2: See you next time. C : See you next time.</p>	45	<p>評 “What's your favorite subject?” “I like math.”の文型を使って話しながら、ゲームを楽しむことができる。(観察)</p> <p>・書けない児童のそばに行き、支援をする。 ・終わりのあいさつを児童と一緒にする。</p> <p>・書けない児童のそばに行き、支援をする。 ・終わりのあいさつをする。</p>
-------------	---	----	--

工夫 4

* HRTは学級担任をあらわす

(2) 指導の実際と児童の反応

ア 学級担任がT1として授業を構成・展開すること(工夫1)

普段の学級の様子を知っている学級担任がウォームアップのあいさつと前時の復習を行うことで、児童はリラックスした様子で授業に入ることができた。その後、児童は“5 friends communication”を行った。毎時間の導入でこのコミュニケーションを行うことで、児童もあいさつの仕方を覚え、スムーズに授業に入ることができている。

イ ジェスチャーを交えた指導について(工夫2)

本時の目標である“What's your favorite subject?” “I like math.”の文を理解させるときに、学級担任とALTによるデモンストレーションを児童に見せた。その際、お互いがジェスチャーをしながらデモンストレーションを行うことで、視覚的に文の内容を理解できるよう支援した。児童は初め、何を言っているのか理解できなかったが、2、3度デモンストレーションを繰り返すことで、多くの児童が学級担任とALTの話している文と内容を理解することができた。

ウ 習熟を図るためのゲームについて(工夫3)

本時は、目標の表現の習熟を図るゲームとして、“Memory game”を行った。(資料9)まず、ペアを組み、一方が番号とそれに対応した教科名を英語で覚え、次に、もう一方が番号と“What's your favorite subject?”を言う。そして、覚えたことを生かして相手の質問に“I like ~.”と答えるゲームである。ゲーム中、児童は何度も本時の目標となる文を繰り返し発問し、答えていた。何度もゲームを行いながら楽しく習熟を図ることができた。

資料9 Memory game用シート



エ 児童の振り返りに関して(工夫4)

授業の最後に、学習活動を振り返る評価カードを取り入れている。児童は毎時間“Big Voice” “Eye Contact” “Activeness”の3観点を、4段階で振り返り、継続的に自分の成長を感じ取れるようにしている。児童からは、「ちょっとだけど、英語が話せるようになった」「1学期と比べて英語がしゃべれるようになった」など、継続的に振り返りを行ったことで自分の成長を感じ取ることができるようになった。

オ 全体の傾向

評価カードの集計(資料10~12)から、4(よくできた)

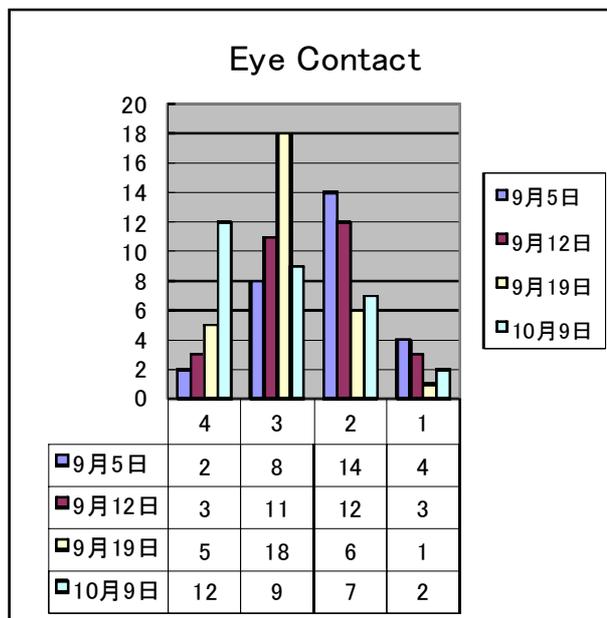
【民間英語講師派遣会社の資料より抜粋】

の人数が増加し、2（あまりできなかった）、1（できなかった）の人数が減少している。また、（資料11）からは、3の（まあまあできた）の児童が4の（よくできた）に推移している様子も見られる。この集計結果からも、学級についてよく把握している学級担任がT1として授業を構成・展開することで、児童は安心して外国語活動に取り組むことができ、活動への意欲を高め、積極的に活動を行うことができるかと判断できる。

資料10 Big Voiceの集計



資料11 Eye Contactの集計

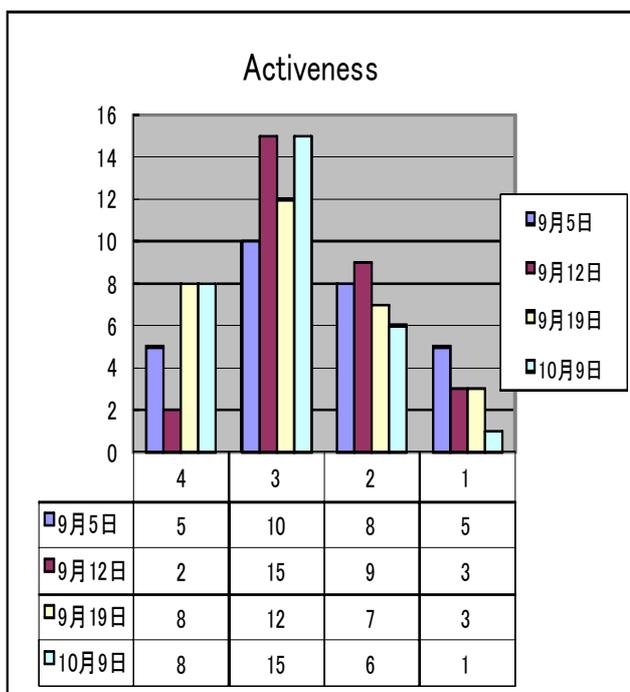


また、自己評価を継続的に行うことで、学級担任は児童の学習状況を把握でき、個々に応じた指導を展開することも可能になった。それによって、今まで外国語活動に消極的だった児童にも十分な支援を行えるようになったため、意欲をもって参加できるようになっている。児童自身も自分の活動を振り返ることで、次時への課題を確認し意欲を高められるようになってきている。

カ 抽出児の変容

A児は外国語活動の中でも、ペア活動やグループ活動に消極的な児童である。初めは授業内容を理解できず戸惑っていたが、評価カード（資料13）を踏まえて学級担任がA児に対してジェスチャーで言葉の理解を促したり、机間指導でA児に声掛けをし、一緒に学ぶように働きかけたりすることで、次第に活動に意欲をもつようになってきた。

資料12 Activenessの集計



B児は、学習内容を完璧に理解するまでは自分から積極的に活動することをためらう児童である。評価カード（資料14）を踏まえながら、B児に自信をもたせられるよう、授業中に“Good!”などの

肯定的な言葉を掛けたり、相手と向き合った時の表情に留意するように指導したりした結果、少しずつではあるが自信をもち始め、活動への意欲が高まってきた。

資料13 抽出児A児の自己評価カード

Let's speak English!

○授業をふり返って、次のアンケートに○をつけよう。

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	TOPIC	アンケート項目		
		Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/5	SNAKES&LADDERS	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/12	Around the school	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/19	Self-Introduction	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/9		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想(わかったことや、できるようになったことを書こう。)
少しはじこしとかができるようになれました。

資料14 抽出児B児の自己評価カード

Let's speak English!

○授業をふり返って、次のアンケートに○をつけよう。

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	TOPIC	アンケート項目		
		Big Voice (相手に聞こえる大きな声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
9/5	SNAKES&LADDERS	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/12	Around the school	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
9/19	Self-Introduction	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
10/9		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
		4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想(わかったことや、できるようになったことを書こう。)
英語が少しはどきどきとしゃべることができた。

(3) 成果と課題

ア 成果

- ・学級の状況をよく把握している学級担任がT1として外国語活動の指導を行うことで、児童が安心して活動に取り組み、同時に学習意欲も高まってきたと感じる。今後も継続してT1としての取組を行っていくことが大切である。
- ・自己評価カードを継続して行うことで、児童は外国語活動における自分の成長を見て感じることができた。また、学級担任も児童の取組状況を把握でき、次時の指導に生かすことができた。

イ 課題

- ・AL Tとの打合せの時間がなく、細かな内容を協議するのが困難である。現在は町のカリキュラムに従って2, 3時間単位の授業予定をプリントでAL Tに提示することで、次時以降の連絡を取り合っている。より細かな指導をしていくためにも、打合せ方法を考えていく必要がある。

4 連携への取組

小中連携への取組を時系列でまとめると以下のようになる。なお、中学校の実践もその中に掲載してある。

月 日	衣浦小学校 (神谷)	富貴小学校 (氏家)	富貴中学校 (小林)
5. 30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターで、小中連携の在り方・もち方について話し合う。 ・町英語研究会代表の石橋教頭（富貴中）へ連絡を取り、協力校3校の教務主任・担当者の会を開いてもらうことを願う。（小林） </div>		
5. 31			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業で評価を蓄積するための「評価シート（案）」を作成・衣小へ送付する。
6. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シート案について加筆・訂正を加える。 		
6. 7			<ul style="list-style-type: none"> ・加筆・訂正をしたものを再び衣小へ送り、次回の協議内容の1つにする。
6. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問で“What day is it ?”(5年)の授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣浦小の授業を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣浦小の授業を参観し、感想を送る。
6. 27	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>総合教育センターで、1か月の取組について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語の授業をすることについての教員の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動に抵抗のある先生も少なくない。 ・児童への声掛けも少なく児童・教員間、児童・児童間の会話も少ない。 2 クラスルーム・イングリッシュの使用頻度・程度と発音について <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任が発音に不安をもっており、正しいか分からず戸惑っている。 ・基本的には日本語を話さないが、児童はよく理解している。 3 授業の教材・単元構成の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・AL Tのデータをもらっておく事が大切である。フラッシュ・カードではなく、教室に設置されたテレビに携帯用画像再生機からの画像を見せながら、発音練習している。授業開始時には必ず前時の復習をして定着を図っている。 ・ラミネートされたフラッシュ・カードを使い、発音練習を行っている。 4 AL T, 指導員とのティーム・ティーチング <ul style="list-style-type: none"> ・3校ともAL Tが他校と掛け持ちをしており、打合せ時間がほとんどとれない。 ・富小ではAL Tが指導案をファックスで送ってきて、打合せ時間をとらずに授業をしている状態である。 ・富中も同様に、英語教員が指導案をAL Tにファックスで送っている。 5 児童・生徒の様子、表情 <ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、英語の時間は大好きで意欲的である。 ・6年生も楽しみにしている。 6 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校用評価シートについて ↓ 日付や題「Topic」の記載をどうするか。 ・クラスルーム・イングリッシュの講座や講義・練習も必要か。 <div style="text-align: center;">  </div> </div>		



写真2 児童の様子

7. 4	<p>小学校では、まず協力員が率先して授業を行い、学級担任がT 1として主導権を握って、授業中の一つ一つの指示を出すように心掛ける。 中学校教員は、クラスルーム・イングリッシュの練習が小学校で必要であれば出向く。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅井先生（1年英語担当）の授業を参観する。（ビデオ撮影） ・現職の研究授業と兼ねる。
	<p>＜山中先生（教育センター）からの指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポがあり、活気のある授業で50分があつという間に過ぎた。 ・全生徒が課題に向かって前向きに取り組んでいた。 ・指示の出し方、ポイントの確認、早くできた生徒への指示が的確だった。 ・クラスルーム・イングリッシュが行われていた。 クラスルーム・イングリッシュに関する掲示物を掲示しておくとう英語が苦手と思っている生徒にもよくわかり、つづりも定着するのではないかな。 ←これは小学校でも同様で、児童だけでなく教員にもよく分かるのではないかな。 また、発音を練習できるようなCD等を用意するとよいのではないかな。 ・様々な手立てが講じてあり、工夫された活動で楽しみながら重要表現が身に付く活動だった。小学校の段階でコミュニケーション活動が積極的にできれば、中学校で書く活動の時間をもう少し確保できるのではないかな。 ★中学校英語における書く活動について 繰り返し書く活動では、発音しながら書いてはどうか。書いたらすぐ確認する方法はないか。（間違えたつづりを何回も書くのはどうかと…） 		
7. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアンケートを実施し、回収する。
17	<p>＜アンケート結果からの分析（センターの先生からの質問と回答）＞</p> <p>Q 1 武豊地区では「英語が苦手という生徒が多い割りに、英語の授業が好きだ」と言う生徒が多いのはなぜか。</p> <p>A 1 中学校の該当英語教員の人としての「魅力・人間力」や授業力にかかわっているのではないかなと思う。また、英語が難しくても、授業の中で自分から積極的にかかわることのできる活動があったり、自己実現できる場があるからではないかなと思う。</p> <p>Q 2 富貴小5年2組の「英語がとても好き・まあまあ好き」を合わせると100%になるのはどこに秘けつがあるのか。</p> <p>A 2 学級担任はT 1として前面に出ているわけではないので、やはりALTの力が大きいと思う。学級担任ではなく、ALTの雰囲気等だと思う。</p>		
8. 5	<p>武豊町現職英語教育研究会（2小学校＋1中学校の代表者＋教務主任）</p> <p>＜研究協議内容・今後の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに行った2つの授業（衣浦小・神谷先生：“What day is it ?”と富貴中 浅井先生：Unit 3 Part 3 コミュニケーション活動を用いた否定文の習得）は、この時点ではあまり記憶に残っておらず、メモをしてくださった方のご意見をまとめたに留まった。→ <u>やはりすぐ研究協議をしないといけない。</u> ・9月上旬に衣浦小・神谷先生によるALTとのTT（ビデオ撮影付）を行い、5時以降そのビデオを見ながら検討会議をもつ。 → 結局時間が取れず検討会議を開催できず。 ・2学期以降の学校訪問、学校公開日に限らず授業を見学・参観する場合は、授業者が「どの柱・どの観点」で見たいのかを明示し、参観者は感想等を批評箋や付箋紙に書いて渡すようにする。→ 3校の協力員で感想を送り合う。 ・中学校教員が小学校に出向いて、ALTとのTTを行ったり、小学校の学級担任とTTを行ったりする。→ まだ実現せず。 *比較的に時間が自由になる2学期期末＝11月下旬を予定している。 ・授業の足跡をたどるポートフォリオ型の評価については、時間ごとに1枚の紙を渡していくと児童への負担が大きいため、1月で1枚（4回の授業で、小項 		

目+大きな反省を1つ書く)のパターンを検討中である。 → 実施中		
8. 7	夏季知多英語研究会・知多市勤労文化会館 (衣浦小：神谷, 富貴中：小林 参加) 小学校部会, 中学校部会 (1・2・3年) ・23年度に向け, 様々な悩みや意見が聞けてとても参考になった。 ・小学校の抱えている問題点が明確になり他地域のことがよく分かった。 ・文部科学省の方針と現場の考え方との歩み寄りの必要性を感じる。 ・英語ノートについての意見が聞けたのがよかった。東海市のように一致団結して取り組みたい。 ・他市町村のカリキュラムも見てみたい。 ・英語ノート, 1～4年生の外国語活動の取扱いについて聞けてよかった。 ・新学習指導要領の対応の仕方について各学校の状況を知ることができた。	
8月 下旬	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度はなし)	・児童用の自己評価カードを作成する。(トピックの理解度付き)
5・6年理解度を省いた1月毎のバージョンで統一		
9. 11	・T1として, ALTとの研究授業を行う。	・授業を参観する。
・授業を参観する。		
<授業者の反省> (神谷) ・今回はT1として, 授業を展開できた。また, 最近では復習はT1が行うというのが通常になってきた。(教員の意識もALTに任せるという状態ではなくなってきた。自分で英語の授業を進めていると実感できている。) ・“How are you ? game”については, ALTと打合せをしたが, 実際にやったことがなかったので, スムーズにモデル対話が行えなかった。 ・“How are you ? I'm ~. の pointing game”では, 答えが“I'm hot.”など短い答えに集中してしまうため, 曜日や数字などの単語を活用すべきであった。新しい題材を考えると盛り上がってよいと思う。 <参加者の感想> (小林) ・テンポのよい指示とクラス・オーダーがしっかりしていたのが好印象であった。 ・クラスルーム・イングリッシュも多用されていて練習の成果が見られ, 聞き取りやすい英語だった。		
9. 29	・ALTの入れ替えに伴い, 職員会で「英語授業の進め方」として, 学級担任がT1として授業ができるように, モデルケースを提示し, 共通理解を図る。 ・ポートフォリオ型の評価については, 全体の傾向と個人の傾向の分析を行う。	・衣浦小：神谷先生からの反省や提案を受け, メールで自分なりの考えを送る。 ☆カリキュラムについて, 気付く点をメールで返信する。(英語・文法上の誤り) ・回数を追った上での個人の変容を見るようお願いをする。
10. 7	・富貴中の学校訪問を参観する。 中1 Word Box 2 曜日 中2 Speaking Plus 2 電話	・学校訪問でTTの授業を公開する。 中1 Word Box 2 曜日 中2 Speaking Plus 2 電話
<授業を見ての感想・小学校のTTと中学校のTTの違い等> (神谷) ☆1年 浅井先生 Word Box 2 曜日 ・ALTの発音を聞きながら, 正しい単語を選ぶゲームを是非取り入れたい。 ・“Mr. ~”“Ms. ~”と呼び, “Yes”で返事をするのも参考になった。 ・本時の曜日の内容は, 小学5年生での既習事項であるため, 取り組みやすかつ		

	<p>たのかということに興味がある。← 既習事項でも覚えていない生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では文全体で意味が分かればよいけれど、中学校では文の構造や単語の意味までわからなければいけない。大きな違いだと思う。 ・中学校で使用している「学びの手引」が参考になった。 <p>☆2年 小林 Speaking Plus 2 電話の会話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポがよく授業中の雰囲気もよかった。挙手も多かった。 ・音読練習で順番に縦列の生徒が移動していく方法は、飽きずに練習できる。 ・口頭でのポイント説明より、板書しながらの説明の方がよかったのではないかな。 ・じゃんけんの方法が面白かった。 ・実際に電話を使うのはよい学習支援であったが、「切実感のある対話」には物足りなかったと思う。もう少し教員が役になり切る必要があったのではないかな。 		
10.14	<ul style="list-style-type: none"> ・富貴小の学校訪問を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“What's your favorite subject ?”“I like math.” の A L T との研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富貴小の学校訪問を参観する。
	<p><授業者の反省> (氏家)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1として授業を展開することができた。スムーズに授業を行えた。 <p><参加者の感想> (神谷)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T1としてよく機能していた。“Change, Carlos !”などの表現でクラス・オーダーがよくとれていた。学級担任の英語力に脱帽である。 ・個別指導は日本語で確実に行っているのはよいと思う。 ・“CrissCross”が面白かった。ただ、教科名の習熟に時間がほとんど費やされていたので、“What's your favorite subject ?”の習熟ができるように工夫するとよい。 ・授業のまとめの段階で writing が入っていたのは、中学校へのよいつなぎとなる。 ・評価カードを時間内に書かせたのがよかった。今後の評価の生かし方がかぎである。 <p><参加者の感想> (小林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス・オーダーがよくできており、授業の流れがスムーズである。しかし、時に先生の意図どおりにいきすぎて、ゲーム性の薄れる場面もあったと思う。 ・クラスルーム・イングリッシュが多用されていて好印象である。通じにくい表現の時のフォローの仕方に工夫がほしい。 ・T Tとしての掛け合い、児童の前への出し方や引き方は絶妙だったと思う。 ・評価カードの記入方法については、欄に書けない児童がいるので、配慮が必要である。 ・T2 (T1も行う場合はあるかも?) のフラッシュ・カードの提示の仕方や、大文字、小文字の統一についての見解をはっきりさせたい。 ・ライティングシートのJの書き方やP. E.の「.」の扱いについて一考したい。 		
10.15	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターの研究を振り返って、成果と課題について話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 T1として授業を行うことで得たもの 2 ポートフォリオ的な評価をすることで得たもの 3 A L T との関係 4 中学校の英語授業を参観することで得たもの 5 小学校の英語活動を参観することで得たもの 6 1～5の課題と改善するための取組 7 今後の小中連携の在り方について 8 その他 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめレポートの作成

5 成果と課題

(1) 成果

ア 小学校の実践を通して

衣浦小学校ではALTの変更に伴い、「英語授業の進め方」(資料14)を全職員に提案し、学級担任の意識改革をしたことにより、ALTに任せきりになっていた英語の授業を学級担任が構成・展開するようになりつつある。また、英語の授業の進め方について学年間で情報交換したり、ALTとの打合せの時間を確保したりする姿が見られるようになった。

また、小学校外国語活動の様子を中学校の英語教員に参観してもらうことで、クラスルーム・イングリッシュや授業構成の在り方をアドバイスしてもらえるようになり、学級担任が中心となって授業を構成・展開しやすくなりつつある。

この連携を機会に、小学校間でも外国語活動の授業を参観し合い、情報交換することにより、授業改善のポイントが明確になってきた。

資料14 外国語活動の進め方

英語授業の進め方について

model case

時	HRT(T1)	ALT(T2)	児童
授業前	黒板に"good""hot""hungry" "great"など"How are you?" に対する答えを書いておく。		日直が日本語で通常授業と同じあいさつ。 児童は立ったまま。
あいさつ	"Good morning (afternoon)" "How are you?" "I'm good."	"Good morning (afternoon)" "How are you?" "I'm good."	"Good morning (afatemoon)" I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you? "Good morning (afatemoon)" "Good morning (afatemoon)" I'm good. (黒板に書いてある表現) Thank you.And you?
warm up	例：5人"How are you?" "I'm ~."会話をするように指示。		例：5人と会話する。
review	前時までの復習をする。 例：one-ten Sunday-Saturday "Do you like ~?"	児童と一緒に発音する。	教師の指示に従い発音する。
言語活動	例：「今日は、〇〇を学習します。ここからは、ペンとパトントッチします。」	本時の学習内容を教える。	
※ALTが本時の学習内容を教えている間は、児童と一緒に活動したり、日本語で補足説明したり、学級の生徒指導をしたりする。			
game	gameの内容が分かって	HRTがゲームの説明をし	ゲームに参加する。

40	いたらゲーム内容を説明する。(Next,lets game!というようにゲームの始まりと終わりを担任が仕切れるとよいと思います。) ※ALTと共にゲームのモデルを示す。	ない時に、ゲームの説明をする。 ※HRTとともにゲームのモデルを示す。	
まとめ	本時の学習内容をまとめる。 例：フラッシュカードで復習する。 本時で学習した英文を復唱する。 など ※武豊町の英語カリを授業に持参し、学習内容をメモに取りながら、まとめに生かしていくとよい。		教師の指示に従って発音する。
あいさつ	45 "That's all for today" (今日の授業はこれで終わりです。)	"Good-bye. See you."	日直が通常のあいさつ

イ 中学校の実践を通して

小学校時に英語の発音に触れてきただけあって、「数字」や「曜日」の学習では難しい発音にも抵抗なく練習に取り組むことができた。また、ALTにも気軽に声を掛けられる生徒が多く、生徒間でALTの存在が日常化されていると感じた。

しかし、基本表現の定着から発展的に表現する場面では、語彙の少なさと決まり文句しか言えない会話力の乏しさから、自信をもてない生徒も多い。



写真3 中学校授業

今後は、生徒の心の中から湧き上がる「英語を使って話したい、伝えたい」と思える活動や場面設定をしていく必要がある。

(2) 課題と今後の取組

ア 児童生徒に関して

外国語活動の時間は児童にとってとても楽しいものであるが、進んで英語を活用しようとしたり、コミュニケーションをとったりという段階には、まだ至っていない。しかし、英語に多く触れ、ある程度の語彙をもっている児童が中学校に上がってきている現状は、「耳から慣れる」という点では非常に利点がある。

それにもかかわらず、中学校段階で生徒が英語につまづくのは、小学校での英語が「知識としての蓄え」ではないため、中学校に入学してから一気に文字を練習しなくてはならない「文字ショック」と共に、記憶として知識を蓄え、覚えていかななくてはならない「メモリーショック」を同時に味わう結果にもなっているからだと思われる。小学校でALTや学級担任と共に培った、英語を使ったコミュニケーション活動への意欲を持続させつつ、このショックを少しでも軽減できるような過程（音声と文字とを結び付ける効果的なフォニックスの在り方など）を、小学校6年後半又は中学校1年4月期に取り入れる必要がある。

イ 教員に関して

研究員の呼び掛けや「英語授業の進め方」の作成により、年度当初より積極的に授業にかかわり、学級担任の自分がT1であるという意識が多く教員に広がりつつある。しかし、まだまだクラスルーム・イングリッシュに不慣れで、コミュニケーション活動に入るとALTに任せてしまう面も見られる。

今後は、近隣の中学校の英語教員がALT役を買って出て、小学校の学級担任とTTを組んだり、研究授業の様子をビデオで見ながら、検討会をもつなどの工夫が必要と感じる。なかなか時間的なゆとりがなく、先延ばしになっている現状をできるだけ次年度に向けて打破していきたい。自主的な研修ではなく、全職員が現職研修の一環としてクラスルーム・イングリッシュの研修を受けられたり、研究内容を共有できるようにしたり、全校体制で取り組むようにしたい。

また、学級担任がT1をすることによる学級間の差や、ALTの違いによる学校間の差をなくするために、武豊町の共通カリキュラムのテキストに従って授業や活動を進めることも重要である。

ウ その他

メーリングリストを作って情報交換したり、授業のビデオを他校に回して見るなど、情報交換の場を設定することが研究を進めていく上で必要である。

武豊町小学校英語活動カリキュラム

1 5年生

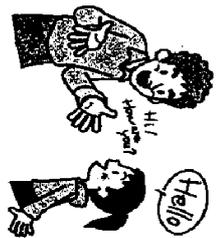
No.	Title	Target Sentence
1	Greetings	What's your name? My name is Hanako. ①日常のあいさつを覚えて言う。 ②「あなたの名前は何かですか」の問いに答える。 また、自分の名前を文で言う。 ③アイコンタクトや握手の大切さを学ぶ。
2	Karuta	Stand up. Sit down. ①授業で使う英語を覚えて言う。
3	Age(a)	How old are you? I'm ten. ①1～10の数字を覚えて言う。 ②「あなたは何歳ですか」の問いに答える。
4	Colors(a)	What color is this? It's red. ①基本的な色の名前を覚えて言う。 ②「これは何色ですか」の問いに答える。 ③「あなたの名前は何かですか」と尋ねる。
5	Wild Animals	What's this? It's a giraffe. ①野生動物の名前を覚えて言う。 ②「これは何ですか」の問いに答える。 ③「これは何色ですか」と尋ねる。
6	Colors(b)	What color is this? It's red. ①基本的な色の名前を覚えて言う。 ②「これは何色ですか」の問いに答える。 ③「あなたは何歳ですか」と尋ねる。
7	Days of the Week	What day is it? It's Monday. ①曜日の名前を覚えて言う。 ②「何曜日ですか」の問いに答える。 ③「これは何ですか」と答える。 ④「これは熊です」と文で言う。
8	Weather(a)	How's the weather? It's rainy. ①天気を表す言葉を覚えて言う。 ②「どんな天気ですか」の問いに答える。
9	Fruit(1)	A banana./An apple. What's this? It's an apple. ①フルーツの名前を覚えて言う。 ②色や数字の形容詞的用法(a yellow banana, two oranges)を覚える。 ③「これは何ですか」と尋ねる。また、「それはリンゴです」と文を用いて言う。
10	Fruit(2)	Do you like ~? Yes, I do./No, I don't. ①果物の名前を覚えて言う。 ②「あなたは～が好きですか」と問いに答える。
11	School Lunch	Do you have ~? Yes, I do./No, I don't. ①給食の食べ物や食器の名前を覚えて言う。 ②「～はありますか」「私には～がありません」と英語で話す。
12	Vegetables	Do you like onions? Yes./No. I don't like onions. ①野菜を表す語句を覚えて話す。 ②「～は好きですか」の問いに"Yes, I do./No, I don't."で答える。
13	Feelings(1)	How are you? I'm hot. ①基本的なあいさつを覚えて言う。 ②気持ちを表す語を覚えて言う。
14	Feelings(2)	How are you? I'm sick. ①気持ちを表す語句を覚えて話す。 ②「ごきげんいかがですか？」の問いに答える。
15	Review Activities	既習の文 ①既習の語句や文をゲームで総復習する。 ②「キャベツは好きではない」(I don't like cabbage.)と文で言う。

16	Months(1)	When is your birthday? ①月の名前を覚えて言う。
17	Months(2)	What month is it? It's February. ①月の名前を覚えて言う。
18	Sports(a)	Can you play baseball? Yes,I can./No, I can't. ①スポーツの名前を覚えて言う。 ②「あなたは野球ができますか」の問いに答える。 ③天気を文で言う。(It's rainy.)
19	Sports(2a)	What sports can you play? I can play・・・ ①スポーツを表す語句を覚えて言う。 ②「どんなスポーツができますか」の問いに答える。
20	Wild Animals(a)	How do you say <i>kirin</i> in English? Giraffe. ①野生動物の名前を覚えて言う ②「キリンは英語でどう言いますか」の問いに答える。
21	Wild Animals(b)	How do you say <i>same</i> in English? Shark. ①野生動物の名前を覚えて言う。 ②「サメは英語でどう言いますか」の問いに答える。 ③「ラグビーができます」(I can play rugby.)と文を用いて言う。 ④ジャンケンをして英語で対話する。
22	Kid's stuff	I have a ～. ①子供の持ち物の名前を覚えて言う。 ②「～を持っていますか」の問いに"Yes, I do./No, I don't."と答える。 ③「ワニは英語でどう言うか」(How do you say <i>wani</i> in English?)と答える。 ④持ち物について対話する。
23	Pets	Do you have a pet? Yes, I do. I have a ～./No, I don't. ①ペットの名前を覚えて言う。 ②「ペットを飼っていますか」と尋ねる。 ③「私はバットを持っています(持っていません)」 (I (don't) have a bat.)
24	Kid's food	What food do you like? I like ～. ①子供の好きな食べ物の名前を覚えて言う。 ②「どんな食べ物が好きですか」の問いに答える。
25	Body Parts(1)	Touch your head. ①基本的な身体の部分の名前を覚えて言う。 ②「頭に触りなさい」の文を理解して、動作で示す。
26	Body Parts(2)	What's wrong? My leg hurts. ①基本的な身体の部分の名前を覚えて言う。 ②「身体の具合はどうですか」の問いに答える。 ③「どんな食べ物が好きですか」(What food do you like?)と尋ねる。
27	Review2 10-20	既習の文 ①既習の語句や文を総復習する。
28	Board Game.	既習の文 ①既習の語句や文を総復習する。 ②単語の発音練習をする。 ③「ごきげんいかがですか」の問いに答える。
29	Christmas Card	Merry Christmas. Happy new year. ①外国の年賀状について知る。 ②クリスマスと新年のあいさつをする。 ③年賀状のあいさつ文を読む。
31 ～ 35	Review 1～5	1年間のまとめをする。

No.	Title	Target Sentence
1	First Lesson Preview	Nice to see you again. ①いろいろなあいさつを言ったり答えたりする。 ②「また会えてうれしい」とあいさつする。 ③あいさつの大切さを学ぶ。
2	Classroom English	Stand up. Sit down. ①英語で指示されたことを理解し、指示されたように行動する。
3	TV Characters	Do you know Doraemon? Yes, I do./No, I don't. ①「ドラえもんを知っていますか」の問いに答える。
4	Time(a)	What time is it? It's eleven. ①11, 12の数字を覚えて言う。 ②「今何時ですか」の問いに答える。 ③1時～12時の時刻の言い方を覚えて言う。
5	Time(b)	What time is it? It's eleven thirty. ①1～60の数字を覚えて言う。 ②「今何時ですか」の問いに答える。 ③「サザエさんを知っていますか」(Do you know Sazae-san?)と尋ねる。
6	Cities	Where do you live? I live in New York. ①有名な都市の名前を覚えて言う。 ②「あなたはどこに住んでいますか」の問いに答える。
7	Around the school(a)	Is this the gym? Yes, it is./No, it isn't.(No, it's not.) ①学校にある部屋の名称などを覚えて言う。
8	Around the school(b)	②「これは体育館ですか」の問いに答える。 ③「どこに住んでいるか」(Where do you live?)と尋ねる。
9	Personal profile(a)	My name is __. I am __ years old. I live in __. I like this. ①いろいろなあいさつをする。 ②好きな色、食べ物、スポーツを言う。 ③Profileを紹介する。
10	Personal profile(b)	My name is __. I watch __. I eat __. I can play __. ①いろいろなあいさつをする。 ②好きな色、食べ物、スポーツ、テレビ番組を言う。 ③Profileを紹介する。 ④Profileを書く。
11	School Subjects(a)	What's your favorite subject? I like math. ①教科の名前を覚えて言う。
12	School Subjects(b)	②「好きな教科は何ですか」の問いに、「算数です」と答える。
13	After school(a)	What do you do after school? I watch TV. ①生活を表す語句を覚えて言う。
14	After school(b)	②「授業後に何をしますか」の問いに答える。 ③「あなたの好きな教科は何ですか」(What's your favorite subject?)と尋ねる。
15	Sports(3)c	Let's go skiing. ①play～と～ingの区別をつけられるようにする。 ②主なスポーツを表す語句を覚えて言う。 ③「スキーに出掛けよう」の文を言う。
16	Sports(3)d	Let's go swimming. OK, let's go./No, thank you. ①主なスポーツを表す語句を覚えて言う。 ②「スキーに出掛けよう」の文を言う。 ③「スキーに出掛けよう」の誘いに答える。
17	Countries(a)	Where are you from? I'm from Australia.
18	Countries(b)	①主な国名を覚えて言う。
19	Family(a)	This is my father. This is my mother. ①父母、祖父母、兄弟姉妹の言い方を知る。 ②「この人はお父さんです」「あの人はお母さんです」の文を言う。

20	Family(b)	<p>Introduction, Family words.</p> <p>①家族の構成員を表す語句を覚えて言う。 ②「これは私の母です」とか「妹の名前は...です」と紹介する。 ③「妹はテニスが好きです」(My little sister likes tennis.)と文を用いて言う。 ④家族を紹介する。</p>
21	Snakes and ladders	<p>All of the sentences on the game.</p> <p>①既習の語句や文を総復習する。 ②基本の質問文や答え方を復習する。 ③「～に行こう」(Let's go ~ ing.)と文を用いて言う。 ④いろいろな対話をする。</p>
22	Nengajo New Year's Card	<p>Merry Christmas. Happy new year.</p> <p>①外国の年賀状について知る。 ②クリスマスと新年のあいさつをする。 ③年賀状のあいさつ文を読む。 ④イラストや飾りを入れて楽しい年賀状を作る。</p>
23	Karuta	<p>Review</p> <p>①既習の語句の総復習をする。 ②「魚釣りに行こう」(Let's go fishing.)と文を用いて言う。</p>
24	Daily activities	<p>What time do you get up? At six.</p> <p>①生活を表す語句を覚えて言う。 ②「何時に起床しますか」の問いに答える。</p>
25	I'm doing	<p>What are you doing? I'm studying.</p> <p>①動作を表す動詞の進行形を覚えて言う。 ②「今何をしていますか」の問いに答える。</p>
26	School Timetable	<p>Which do you like better, P.E. or science? I like P.E. better.</p> <p>①教科や主な活動を表す語句を覚える。 ②「体育と理科ではどちらが好きですか」の問いに答える。</p>
27	Rooms in the house	<p>Where is the piano? It's in the living room.</p> <p>①部屋の名前を覚えて言う。 ②「ピアノはどこにありますか」の問いに答える。</p>
28	Household things	<p>What's in the...? A/an ...</p> <p>①「.....の中に何がありますか」を言う。 ②「.....の中に何がありますか」の問いに答える。</p>
29	Kid's Food/Drink	<p>May I help you? A pizza, please.</p> <p>①飲み物の名前を覚えて言う。 ②「ご用ですか」とか「何か飲み物はどうですか」の文を覚えて言う。</p>
30	Review Karuta	<p>Review</p> <p>①既習の単語や文の復習をする。 ②楽しくカルタ取りをする。</p>
31 ~ 35	Review 1 ~ 5	<p>1年間のまとめをする。</p>

Let's speak English!


 年 組 番

☆授業をふりかえって、アンケートに丸をつけよう！

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

Day	Topic	Big Voice (相手に聞こえる大きさ な声)	Eye Contact (相手の目を見て会話)	Activeness (活動に積極的)
/	Feelings(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Review activities	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(1)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
/	Mothers(2)	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1

感想 (分かったことや、できるようになったことを書こう)

小中連携の外国語活動の普及に関する考察

様々な活動での小中連携の有効性については教員間で認識されているが、その普及にまで至っていないのが現状である。そこで、一般的な物事（例：商品、行動、考え）がどのように個人に採用され、世間に普及していくのかという理論を踏まえて、小中連携の普及を規定する要因を分析し、各学校に小中連携が普及するための情報伝達等の在り方を考察する。

1 ロジャーズのイノベーション普及理論

1962年に『イノベーションの普及学』を著したエベレット・ロジャーズが意味するイノベーションとは、まだ社会に普及していない新しい物事（例：商品、行動、考え）を意味する。

新しい商品の購入者が増加する様子を、時間の経過に従って描くと、S字型の曲線になる。この採用速度によって採用者を、「革新者」「初期採用者」「前期多数採用者」「後期多数採用者」「遅滞者」の5つに分類している。ロジャーズによると、革新者は2.5%、初期採用者は13.5%、多数採用者は68%、遅滞者は16%だと分析されている。その採用者と特性をまとめると以下のとおりになる（表1）。

（表1）

採用者分類	比率	特 性
革新者 (イノベータ)	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいアイデアや行動様式を最初に採用する人々。 ・社会の他の大部分の人々が、新しいアイデアや行動様式を採用しない前に採用に踏み切る。 ・社会の価値からの逸脱者であり冒険者である。
初期採用者 (アーリー ・アダプター)	13.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・進取の気性に富んでいるが、革新者に比べて社会の価値に対する統合度が高く、新しいアイデアや行動様式が価値適格的であるかどうかを判断したうえで採用する。 ・社会の平均的な人々とは、革新者ほどにはかけ離れていない。そのため最高度のオピニオン・リーダーシップ（注1）を発揮する。
前期多数採用者 (アーリー ・マジョリティ)	34%	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的には比較的早く新しいアイデアや行動様式を採用する。
後期多数採用者 (レート ・マジョリティ)	34%	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の平均的な人々が採用した直後に採用する。 ・新しいアイデアの有用性に関して確信を抱いても、採用へと踏み切るためには、さらに仲間の圧力によって採用を動機付けられることが必要な、大勢順応型である。
遅滞者 (ラグード)	16%	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいアイデアや行動様式を最後に採用する人々であり、彼らの大部分は孤立者に近い。 ・疑い深く、伝統志向的である場合が多い。

（注1） オピニオン・リーダー・・・世論に影響を強く与える人のこと

2 イノベーション普及速度の決定要因

普及速度は、社会や共同体の人々によって、イノベーションが採用される相対的な速度である。普

及速度は一般的に、一定期間内に新しいアイデアを採用した個人の数で測定され、普及曲線の勾配を数字で表したものが普及速度となる。普及速度は5つのイノベーション属性（相対的有利性、両立性、複雑性、試行可能性、観察可能性）によって説明される。（表2）

（表2）

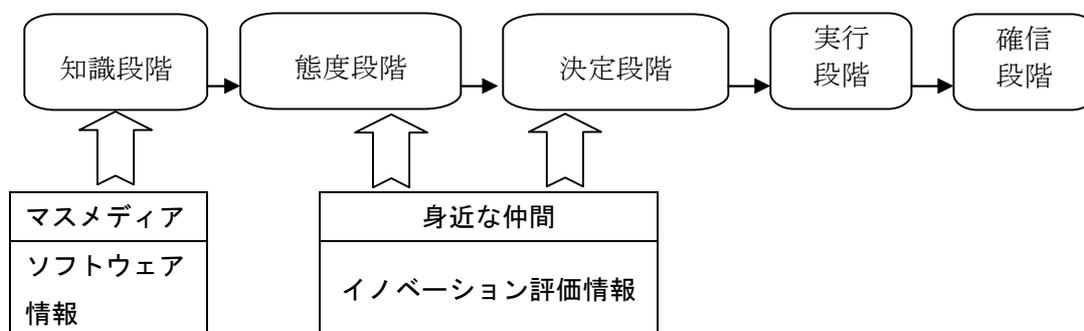
イノベーション属性	特 性
相対的有利性	効果、経済性、満足度などで、取って代わるアイデアよりも良いものである。
両立性	採用者の潜在的な価値、過去の経験、要求と一致している。
複雑性	採用するために新しい技術や知識を習得する必要がない。
試行可能性	イノベーションが小規模レベルで実験できる。
観察可能性	成果が目に見える。

したがって、この5つの属性を観点として、小中連携の実施における状況を分析することが必要となる。

3 イノベーション採用の決定過程と情報伝達

イノベーション採用の決定過程は、個人がイノベーションの利点や短所に関する情報を評価して意思を決定していく過程、つまり、情報探索と情報の処理から加工までの活動である。これは、知識、態度、決定、実行、確信の5つに分けられ、その各段階で、求められる情報が異なると言われる。

知識段階では、イノベーションがどのようなもので、いかに、そしてなぜ機能するのかというような「ソフトウェア情報」を主に求める。その情報源としては、マスメディアなど普遍性の高い性質のものである。態度段階あるいは決定段階では、「イノベーション評価情報」（期待される結果の不確定性を減少させる情報）を主に求め、イノベーションの利点、欠点に興味をもつ。そのため情報の媒体は、身近な仲間などとなる。



全体の傾向として、より早期の採用者の方が、イノベーションの採用決定時に普遍性の高い情報媒体に強く影響を受ける。つまり、早期の採用者はマスメディアなどの情報媒体に影響を強く受け、後期の採用者は身近な人間関係における情報に影響を受けやすい。

これを、先述の「革新者」、「初期採用者」、等の5つの分類に照合させると、

「革新者」＝「マスメディアからのソフトウェア情報で採用を決定する人々」

「初期採用者」＝「マスメディアからのソフトウェア情報を中心にして考えるが、

イノベーションの欠点等にも目を向けて、採用を決定する人々」

と、とらえることができる。

4 小中連携の普及への理論適用

普及理論を小中連携に適用すると、下記の表のようになる。

イノベーション普及理論	小中連携に関する実態
相対的有利性 ・イノベーションを利点があるものと知覚する程度。 ・利点とは、経済的観点、社会的威信、便益性、主観的な満足等。 ・相対的有利性が高いほど、普及が速い。	○児童生徒にとって有益である。 ○教員研修として活用しやすい。 ○教員の意識改革につながる。
両立性 ・イノベーションが潜在的採用者の価値、過去経験、欲求と一致していると知覚される程度。 ・社会システムの主要な価値や規範と両立しない場合、普及は遅い。 ・非両立的なものの採用には、新しい価値体系の採用が必要。	●教員にとって多忙化を招く。 ●現システムを修正する必要がある。 ●教員からの連携を求める声は大きくない。 ○学習指導要領で小学校外国語活動の実態を把握するように求められている。
複雑性 ・イノベーションを理解したり、使用したりすることが難しいと知覚される程度。 ・新しい技術や知識を習得する必要がある場合、普及は遅い。	●研修項目を準備する必要がある（複雑）。
試行可能性 ・イノベーションが小規模で実験できる度合。 ・分割して試すことができる場合、より急速に採用される。 ・試行可能な場合、その採用を考慮している個人によって不確定性が少ない（試すことによって学べるから）。	○大規模ではない。 ○担当者だけの数人で実施することも可能である。
観察可能性 ・イノベーションの成果が人々に見える度合。 ・イノベーションの成果を容易に見ることができるほど、採用の傾向がある。 ・可視性は、仲間同士の話し合いを刺激し、イノベーション評価情報が伝達される。	●連携の成果が実感できない。

○：小中連携に対するプラスのイメージ ●：小中連携に対するマイナスのイメージ

5 小中連携の普及への理論適用に関する考察

(1) 情報とその提供について

小中連携の普及率については、「平成 19 年度英語教育改善実施状況調査結果概要（中学校）」（文部科学省）によると、小学校と中学校の連携状況は、3,808 校（38.0%）で、その主な実施内容は、授業参観が 2,688 校（70.6%）、次いで指導方法についての検討会が 1,473 校（38.7%）となっている。平成 19 年度の小学校数は 22,693 校であるので、小学校からみた連携状況の割合は、16.8%となる。一方、文部科学省指定の研究開発学校で「小中連携」及び「英語教育」に関する取組は、平成 20 年度は 16 件であり、まだ、研究開発途上であることは否めない。

このことから、現状は、「革新者」（2.5%）と「初期採用者」（13.5%）に該当する学校での連携が出来上がり、次の段階へと進んでいくところであると認識できる。つまり、「進取の気性に富んでいるが、革新者に比べて社会の価値に対する統合度が高く、新しいアイデアや行動様式が価値適合的であるかどうかを判断した上で採用する」とする前期多数採用者へのアプローチが必要な段階にあることが分かる。

したがって、提供すべき情報としては、小中連携自体の説明やその効果などの基礎情報（＝ソフトウェア情報）と、小中連携の効果の実証的情報及び利点や欠点等の情報（＝イノベーション評価情報）の両方を提供することが有効であると考えられる。また、その情報提供の方法としては、普遍性の高い情報媒体（例：教育雑誌、総合教育センターのホームページ）と身近な個人間での情報のやり取りを組み合わせるのが良策であるが、この際、インターネットは、マスメディアと個人間の情報媒体、

あるいは世界的な情報媒体と地域的な情報媒体の両面性をもつので、有効に活用していきたい。

(2) 課題と対応

次に、普及速度を決定づける5つのイノベーション属性（相対的有利性、両立性、複雑性、試行可能性、観察可能性）を通して、小中連携をとらえ直してみると上記の表のようになり、両立性、複雑性、観察可能性で課題があることが分かる。

両立性について、教員の心中には「なぜ、小中連携か」「校内研修だけではいけないのか」「連携は不必要ではないか」等の疑問があることが予想される。そのような疑問に対応する新しい判断基準を提示することが必要となろう。また、今回は研究協力校としてお互いが近隣の3校にお願いし、連携会議を開催することを依頼したが、これは今までにないシステムでもあり、現存の市町村単位で開催する会議（例：教科主任会）のシステムと二重になる。小中学校の時間的効率を考えると一本化すべきであり、市町村全体で集まる機会を有効に活用できる工夫を考えることが必要である。

複雑性について。研修を通して習得できる「外国語活動」に関する技術・知識は、小学校教員にとっては新しいもの、難しいものであると思われ、それらに対する彼らの心理的障壁は高い。このことに対処する方策としては、校内研修を計画的に実行し、「外国語活動」の活動例の実践や発音練習等を行うことで、心理的障壁を少しでも低くすることができる。その際に、小中連携をしていけば、研修指導者として中学校の英語担当者に協力を求めることが可能になる。

さらに、観察可能性については、研修の成果を「見える化」することで、自己の「外国語活動」に関する研修成果が明確になり、意欲の継続につながっていくものと考えられる。例えば、「チェックシート」を活用し成功体験を記録する、授業を録音し子どもの喜ぶ声やつぶやきを記録する等、目に見える状況をつくり出し、意欲を持続させることが可能であろう。

現在、小中連携の効果や重要性等が認識されつつある一方で、実際に連携を行っている学校はそれほど多くは存在しない。物事の普及のプロセスを理論的に考えると、普及速度を速めるためには、相対的有利性、両立性、複雑性、試行可能性、観察可能性等の視点から、現場の実態に即した小中連携へ変化させる必要があると考えられる。その際には、多忙化や一部の教員への負担が集中することがないように配慮すべきである。

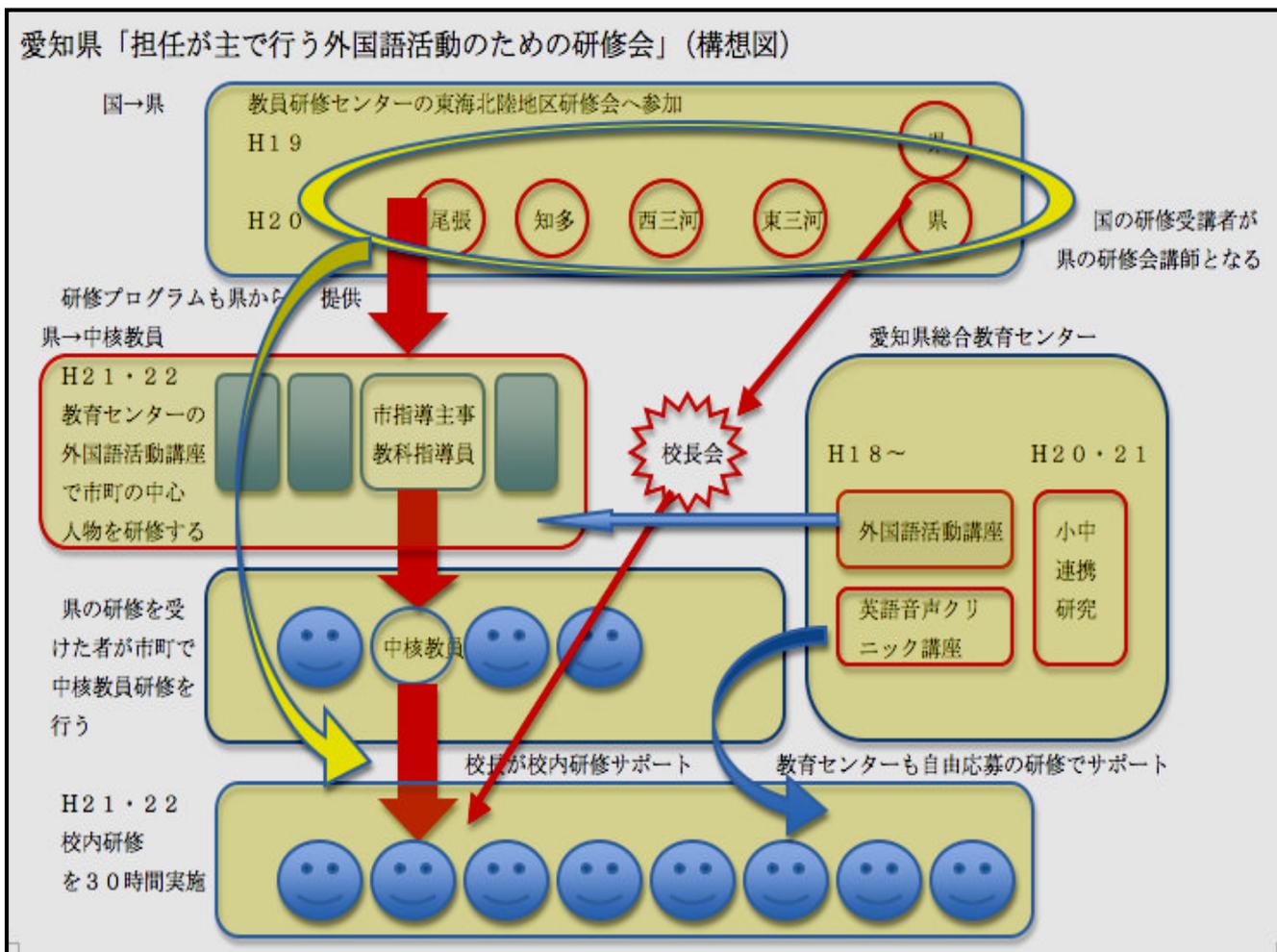
6 小学校外国語活動に向けての研修システム

「平成19年度小学校における英語活動等国際理解教育活動指導者養成研修」（文部科学省中等教育局教科調査官 菅 正隆氏）によると、指導者の研修システムを以下のように実施する予定である。

- H19 指導者養成研修会で、各都道府県の指導主事を指導
 - ・全国をブロックに分けて、5日間実施（H19・20と実施）
- H20 各都道府県で、各小学校1名の中核教員の研修を実施+管理職研修も行う
 - ・中核教員の研修は、5日間25時間程度
 - ・中核教員の研修を受ける対象者
 - ＝小学校のリーダー的な教諭、各市の指導主事など
 - ・中核教員の役割・・・各小学校で、校内研修を実施する
 - ・管理職の役割・・・校内研修の運営をサポートする
- H20・21
 - 各小学校での校内研修は2年間で30時間程度（研究授業の時間も含めて）
 - ・内容：基本理念の理解
 - 研究授業（中核教員の公開授業、他の先生の研究授業を運営・助言）
 - 自己研修（方法の紹介、グループでの研修）
 - ・対象：高学年の担任だけでなく、全教員に実施
 - 校内で学び合う雰囲気不可欠

国の研修プランによると、本格実施が予定されている平成 23 年度に向けて、平成 22 年度までに指導を受けた各小学校の中核教員が合計 30 時間の校内研修を行い、担任が主となって授業を実施できるように準備をすることになっている。

なお、愛知県では、下記の図のような構想の下、現在研修計画を立案中である。



愛知県では、1年遅れではあるが、平成 21, 22 年度に「担任が主で行う外国語活動」をテーマとして、以下のように「中核教員研修」を予定している。愛知県は小学校数が多いので、各校から1名の中核教員を一箇所に集めて研修をすることが難しく、また、市町村によって外国語活動への取組の度合いが異なっていることもある。したがって、県の研修会を、市町村の研修の中心となる者への研修と位置付け、その後、各市町村で中核教員を集めての研修会を開催することになる。県の主催する「中核教員研修」の概要は以下のとおりである。

- ① 研修日程 2日間
 - 第1日目 (1) 国・県の研修政策説明 (2) 外国語活動の理念の説明
 - (3) 校内研修のプラン (4) 実技(活動の紹介)
 - 第2日目 (1) 実技(歌・チャンツ練習) (2) 実技(国際理解の活動)
 - (3) マイクロティーチング (4) 実演と助言(運営方法)
- ② 参加人数 約120名

県の研修会では、約 60 の市町村から各 2 名、合計 120 名程度の参加を予定している。その後、各市町村で、同様に各校 1 名、または、2 名の中核教員が参加する研修会を行う。ただし、すでに外国語活動に関する研修が進んでいる市町村については、その方針を継続する。

③ 研修の特色

県の研修会に参加した指導主事等がワーキンググループをつくり、各研修会で使う資料・研修教材を作成し、配布する。

④ その他

担任を中心として実施する「外国語活動」のイメージづくりや、英語が苦手な担任が自信をもって授業に臨むことができるようにする校内での研修方法を考慮する。

各小学校では、校内研修を 2 年間で 30 時間程度（研究授業の時間も含めて）実施する方向性も出ていることから、小学校教員は校内研修の効果的・効率的な実施を考えるようにすべきであると認識してほしい。

参考書籍

エベレット・ロジャーズ「イノベーションの普及」2007 年、10 月

参考URL

「犬塚英語情報源」<http://www.tcp-ip.or.jp/~ainuzuka/>

小中連携による外国語活動アンケートから見てくること

1 調査の目的

小学校における外国語活動の実施状況は様々である。平成 23 年度から実施する学習指導要領の外国語活動の授業時数、年間 35 時間をすでに実施している小学校もあれば、ALT が来校するときのみ授業を実施している小学校もある。そのような実施状況が異なった小学校からの卒業生を受け入れる中学校にとって、英語の学習をした時間や内容にばらつきがある状態の生徒に同じ授業を行うことへのデメリットも存在すると予想できる。異なった出身小学校ごとに、中学校での英語学習に対する情意面での違いはどの程度存在しているのかを調べ、それに対応した中学校入門期での授業の留意点を明らかにしたいと考えた。

2 調査の方法

2 地区の小中学校 3 校ずつ計 6 校（それぞれの地区、2 つの小学校と 1 つの中学校）に対してアンケートを実施した。（2008 年 7 月実施）各校の状況は下記のとおりである。

地区名	学校名	分類	対象者数	備考（本年度の年間授業時数等）	
X 地区	A 小学校	一般校	5 年生 125 名	5 年：19 時間（※1）	1, 2 年：3 時間
			6 年生 137 名	6 年：19 時間（※1）	3, 4 年：19 時間
					※1 ALT(T1)と担任(T2)の T T
Y 地区	B 小学校	外国語活動拠点校	5 年生 92 名	5 年：35 時間（※2）	1, 2 年：10 時間
			6 年生 93 名	6 年：35 時間（※2）	3, 4 年：20 時間
					※2 「ALT(T1)と担任(T2)」と「担任(T1)と協力員(T2)」の T T を交互に実施
	C 中学校	一般校	1 年生 152 名	各学年：140 時間（週 4 時間）	
Y 地区	D 小学校	一般校	5 年生 92 名	5 年：35 時間（※3）	1, 2 年：1 時間
			6 年生 110 名	6 年：35 時間（※3）	3, 4 年：1 時間
					※3 担任(T1)と ALT(T2)の T T
	E 小学校	一般校	5 年生 79 名	5 年：35 時間（※3）	1, 2 年：0 時間
			6 年生 87 名	6 年：35 時間（※3）	3, 4 年：0 時間
	F 中学校	一般校	1 年生 121 名	各学年：105 時間（週 3 時間）	

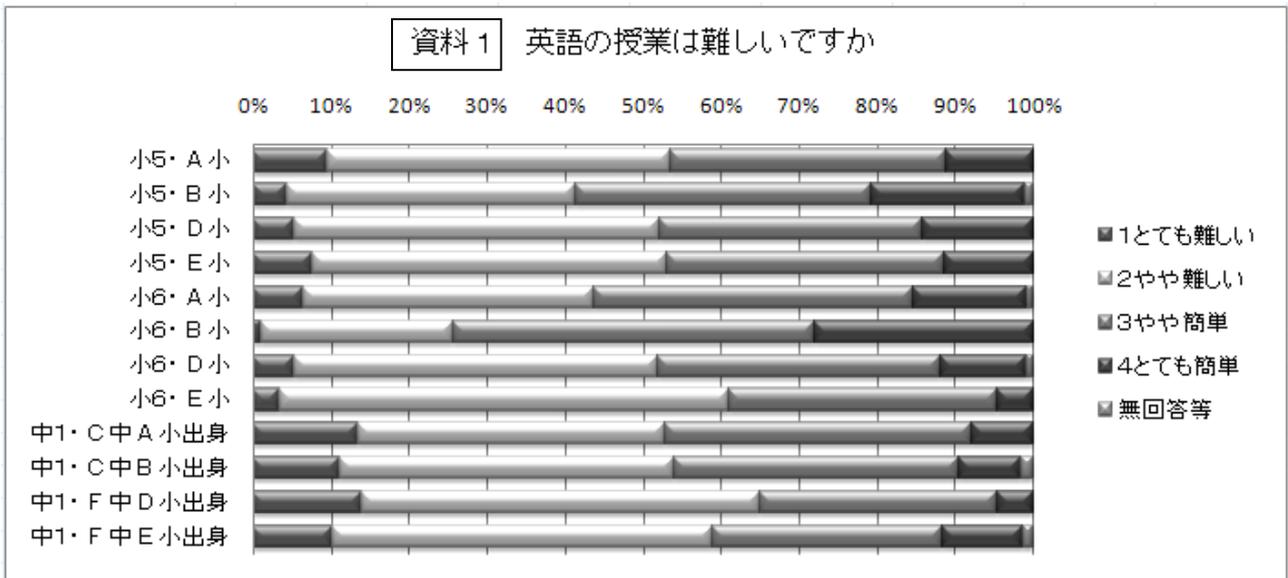
アンケートの内容概要

英語の授業は難しいですか。	1 = とても難しい	2 = やや難しい	(1 ~ 4 から 1 つ選択)
	3 = やや簡単	4 = とても簡単	
以下、英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことについて同様に尋ねる			
英語の授業は好きですか。	1 = とても好き	2 = まあまあ好き	
	3 = 少し嫌い	4 = とても嫌い	
同様に、英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことについて尋ねる など			

実際のアンケート用紙は、本章末に載せる。

3 調査の結果と考察

(1) 英語の授業は難しいと感じているかどうか

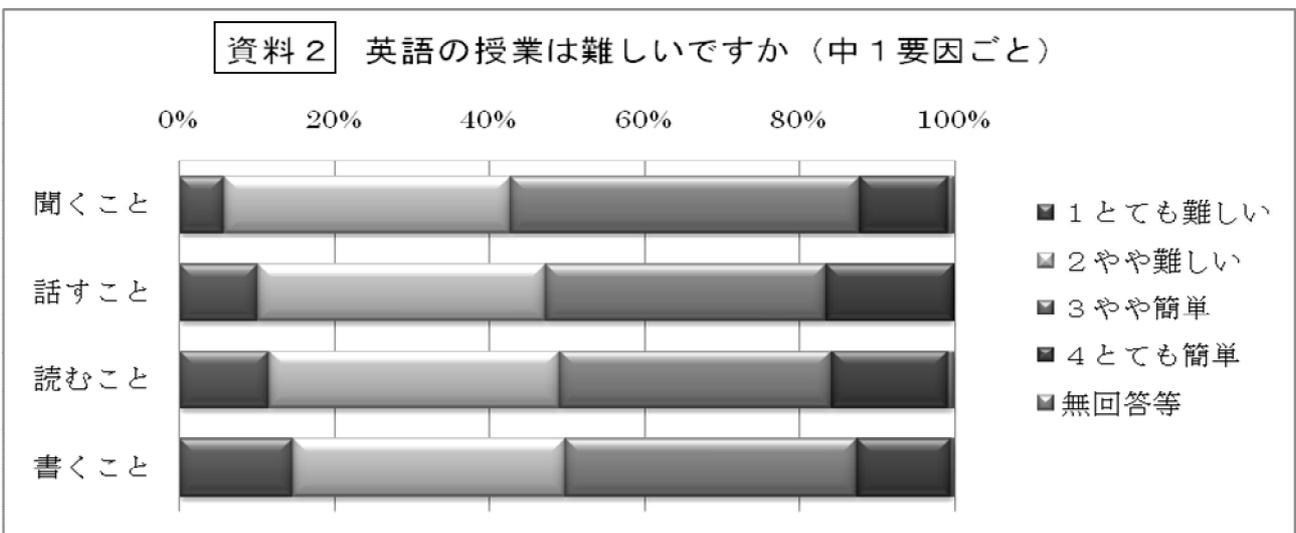


資料1は、英語の授業は難しいと感じるかどうかを尋ねたアンケート結果を示している。

資料1から、次のようなことが読み取れる。5年生の集団では、B小学校だけが、「とても難しい」「やや難しい」を合わせた割合が小さい。6年生の集団でも、同様な傾向があり、それが更に大きな差となっている。特に、「とても難しい」と感じている者は、ほとんどいない状態である。研究拠点校として英語に力を入れているB小学校が大きな成果をあげている様子が見られる。しかし、中学校になると、B小学校出身生も、他の小学校出身生とあまり変わらない状態になっている。

小学校段階で、年間35時間と授業時数も多く、徐々に英語に慣れ親しませる、ステップを踏んだ授業を展開しているB小学校は、授業が難しいと感じる児童を減らしているが、中学校段階になると、それをかき消すほどの大きな「授業を難しく感じさせる他の要因」が現れ、どの小学校の出身生も同様に困難さを感じる結果になるようである。

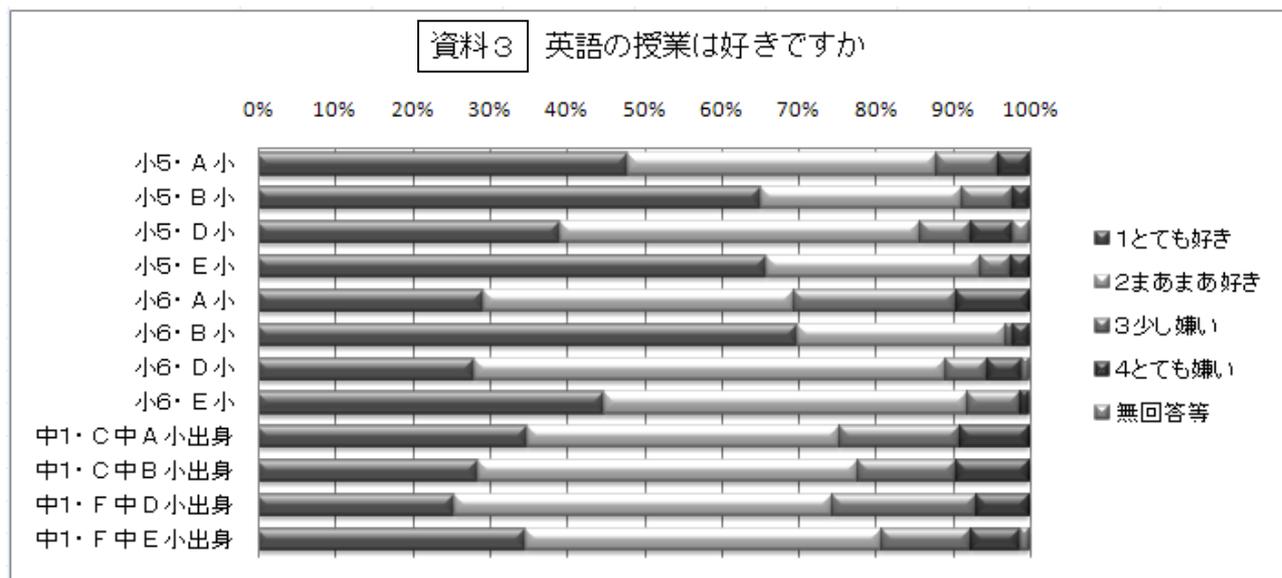
それでは、何がその要因なのであろうか、中学校において難しいと感じる要因（聞く・話す・読む・書く）を、資料2にまとめてみた。



資料2から分かるように、中学1年生で授業を難しいと考える要因になっているのは、「読むこと」

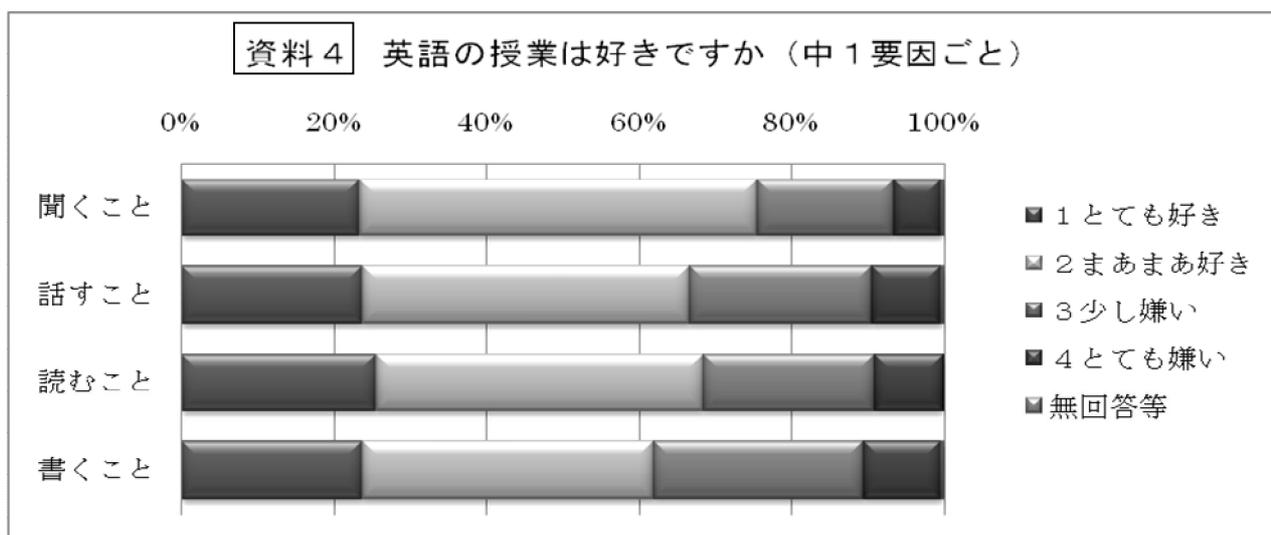
「書くこと」に関する割合が高く、文字指導にかかわる内容と関連があるようだ。なお、原則として、小学校段階では、文字に関する指導は行っていない。

(2) 英語の授業は好きだと感じているかどうか



資料3は、英語の授業が好きだと感じているかどうかを尋ねたアンケート結果を示している。

資料3から、次のようなことが読み取れる。5年生の集団では、「とても好き」「まあまあ好き」を合わせた割合は、どの小学校も90%程度であるが、「とても好き」のみを比べると、B小学校、E小学校が65%程度、A小学校とD小学校が40～50%程度と差が出ている。6年生の集団では、「とても好き」「まあまあ好き」を合わせた割合は、B小学校、D小学校、E小学校が90%程度、A小学校が70%程度と差が出ている。また「とても好き」だけをみると、B小学校だけが70%と突出していることが分かる。中学校では、どの小学校出身生についても、ほぼ同様な傾向が見られ、全体として「とても好き」と「まあまあ好き」を合わせた割合は、75～80%程度であり、小学校5・6年生よりも減少している。ただし、このデータは、同じ集団を追ったものではなく、6年生の集団と中学1年生の集団は別であることを考慮する必要がある。



それでは、何がその要因なのであろうか。中学校において英語の授業が好きだと感じる要因（聞く・話す・読む・書く）を、資料4にまとめてみた。資料4から分かるように、中学1年生で授業

が好きだと考える要因になっているのは、「とても好き」「まあまあ好き」の割合から、「聞くこと」が他と比べて少し多いことが分かる。資料2で示した英語の授業を難しく感じさせている要因は、中学校で新たに学習し始める文字を介した活動（「読むこと」「書くこと」）であったのに対して、英語の授業が好きだと思う要因は、活動の簡単さによるものであると考えられる。このアンケートを7月に実施したことから、中学1年生の1学期に行っている活動を考えたとき、「聞くこと」に関しては、英単語の音声を聞き、その音声が示している英単語の絵を選択するとか、アルファベットの音声を聞き、文字を書き取る（例えば、l-i-k-e とアルファベットを聞いて、like と書き取る）などの簡単な活動を授業で行っていると考えられる。それらの多くは小学校で十分慣れ親しんだ活動であり、難度がそれほど上がっていない活動が多く、簡単だと感じていると理解できる。

資料4で、次に数値が高いのは「読むこと」である。この段階では、「読むこと」は、文を読んで内容を理解するような活動ではなく、教科書の本文、たいていは数行の短いものを音読する活動が多いと考えられる。つまり、教師やCDの音声の後について、リピートする音読練習であり、文の長さも5語程度と容易に繰り返せる長さであることが、簡単だと感じさせていると考えられる。

それに対して「話すこと」は、小学校でも行っている活動であるが、中学校では文字を介して行うことも増加しているので、感覚として難しさを感じているのではないだろうかと推測される。「書くこと」に関しては、中学校で初めて経験する定期テストでは、英単語の綴りを問われるので、生徒は記憶するために繰り返し書き、さらには、短いながらも日本語を英語に直すなど文法事項にも関連した活動になるので、それが最も難しいと感じる活動になっていると考えられる。このことから、「読むこと」「書くこと」が英語の授業が好きであると考えた要因としては、割合が少ない原因であろう。

4 まとめと今後の課題

このアンケートでは、小学校段階の外国語活動の経験が、中学校の入門期の英語授業にどう影響をするのかをとらえ、その対応として中学校の授業改善のポイントを考察することにある。資料1から4を見て分かることは、次の2点である。

- ① 小学校で外国語活動の授業の進め方により、情意面で差が生じてくる。
- ② 中学校では、小学校で見られた情意面での差はなくなっている。

それぞれについて、考えられる理由と、その今後の対応策について以下にまとめてみたい。そして、その対応策については、来年度の研究に継続していきたい。

(1) 小学校で外国語活動の授業の進め方により、情意面で差が生じてくることについて

①については、どんな進め方により情意面で差が生じているのかを考え、可能な限りより効果的な方法をどの小学校も実践することで、全体として小学校の外国語活動の充実を図ることができる。

情意面全般で高い値を示しているB小学校は、外国語活動の研究拠点校で、全校体制で研究に取り組んでいることから、学級担任の外国語活動の授業づくりに取り組む意識が非常に高いと考えられる。1年から6年まですべての学年で外国語活動に取り組んでいることもあり、学校での研究授業の実施や全職員で外国語活動に取り組む体制ができている。また、その授業体制も特徴的で、ALTと学級担任のティーム・ティーチングで行った授業内容を、再度、学級担任が中心となり復習の授業をする形態であり、学級担任が主となって授業を展開していく機会が多いように思われる。

D小学校、E小学校でも学級担任がT1としてティーム・ティーチングを実施しているが、本年度から始まったばかりで、5・6年生のみが外国語活動の授業を行っていることもあり、職員全員

で外国語活動に取り組む体制にまだなっていないようである。

これらのことを踏まえ、今後は学級担任が主体的に外国語活動の授業づくりに取り組んでいくことが大きなかぎになるように考えられる。ALTが主となる授業では、教えた^い授業内容に焦点が当てられているが、学級担任が主となる授業では、子供たちの興味・関心や他の教科で扱っている内容等との関連にも焦点を当てること、また、外国語活動の授業以外でも外国語活動の学習事項に触れる機会も増えてくることを利点として活用することができる。

(2) 中学校では、小学校で見られた情意面での差はなくなっていることについて

②については、小学校段階で見られた情意面での差をかき消すほどの大きな要因が中学校入門期に存在しているのではないかと考えられる。そして、それが今後の中学校入門期の授業改善のポイントになると考えられる。中学校入門期に存在する大きな要因としては、次の2点が考えられる。

(ア) 中学校で新たに文字を扱うことによる「文字への抵抗感」

(イ) 小学校で慣れ親しんだ「話す活動への評価のフィードバック不足」

(ア)については、次のように考えられる。新学習指導要領では、音声と文字の関係についてフォニックスなどを通して指導するのは、中学校の役割となっている。今まで中学1年生当初はピクチャー・レッスンと言って、文字を見せずに英単語を示したり、簡単な会話表現を教えたり、クラスルーム・イングリッシュに慣れさせたりする段階を設けてきた。その時点では生徒の学習意欲も高く、文字があまり扱われない1年生1学期中間テストの平均点は高い。その後、文字が導入され単語の綴りを覚えなくてはならなくなり、それがテストの点数に大きくかかわってくる1学期期末テストでは平均点がかなり下がり、それに伴って「英語が難しい」「英語がわかからない」「英語は嫌いだ」という意識が高まるのではないかと考えられる。

「文字への抵抗感」への対応策としては、1年生入門期において小学校で慣れ親しんだ英語の音声と文字との関係を学ぶフォニックスなどの指導を充実させることが大切である。英語の音声を聞いて、ローマ字流の綴りではなく、英単語の綴りが思い浮かべられる力を身に付けさせることが大切である。例えば、bookの中のooが「オオ」ではなく「ウッ」と発音するとか、roomの中では同じooが「ウー」と発音することなどに慣れさせたり、play, wayなどayは「エイ」と発音することなどに慣れさせたりする必要があるであろう。

(イ)については、次のように考えられる。小学校では、聞くこと・話すことの活動が中心であるため、教師からの称賛を中心とした評価も多く行われるが、中学校では、テストが大きな存在を占めており、単語が正しく綴られないと正答にならない。テストは点数というかなり強い評価のフィードバックが生徒に与えられる。その一方で、聞くこと・話すことの活動も行われているであろうが、それに対して、小学校で与えられていたような言葉による評価も、テストのような点数による評価も与えられない。つまり、評価のフィードバックが与えられていない実態があるようだ。そのため、小学校で慣れ親しんできた聞くこと・話すことの活動に対する意識より、テストの点数に直結する文字に対する意識が強くなり、小学校で聞くこと・話すことの活動が得意だと思っていた生徒も、そう思わなくなっていくのではないかと考えられる。

「聞くこと・話すことの活動への評価のフィードバック不足」への対応としては、中学校英語教員が小学校外国語活動の授業パターンや活動内容を十分把握し、小学校と同様に、聞くこと・話すことの活動への評価のフィードバックをしていくことが大切であろう。中学校の英語学習の開始時に小学校外国語活動で行っているような授業を行い、生徒の良い面を言葉で評価し、その良い点を生かすような中学校の授業展開を考えていくことが必要であろう。

小中連携による外国語活動 中学生用アンケート

- 1 中学校名 () 中学校 先生に聞いて学校番号をマークしてください。
- 2 出身小学校名 () 小学校 先生に聞いて学校番号をマークしてください。
- 3 組 () 組

質問① 中学校の英語の授業について、あなたの感じるところを選んでください。アンケート用紙の該当の数字を○で囲み、その数字をマークしてください。

- | | | | | |
|---|------------|------------|----------|-----------|
| 4 英語の授業は難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 5 英語の授業で、英語を聞くことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 6 英語の授業で、英語を話すことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 7 英語の授業で、英文を読むことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 8 英語の授業で、英文を書くことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 9 英語の授業で、先生や友達と英語で会話するのは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 10 英語の授業で、外国の文化を勉強するのは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 11 英語の授業は好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 12 英語の授業で、英語を聞くことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 13 英語の授業で、英語を話すことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 14 英語の授業で、英文を読むことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 15 英語の授業で、英文を書くことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 16 英語の授業で、先生や友達と英語で会話するのは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 17 英語の授業で、外国の文化を勉強するのは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 18 あなたは今、週に1回以上、英語塾（英会話学校・家庭教師を含む）に通っていますか。 | 1 = はい | 2 = いいえ | | |

質問② 小学校の英語の時間・活動を思い出して、あなたの感じるところを選んでください。アンケート用紙の該当の数字を○で囲み、その数字をマークしてください。

- | | | | | |
|---------------------------|-------------|--------------|---------------|----------------|
| 19 英語の時間・活動は楽しかった。 | 1 = とてもそう思う | 2 = まあまあそう思う | 3 = あまりそう思わない | 4 = まったくそう思わない |
| 20 英語の時間・活動は今役に立っている。 | 1 = とてもそう思う | 2 = まあまあそう思う | 3 = あまりそう思わない | 4 = まったくそう思わない |
| 21 英語の時間・活動はもっとあった方がよかった。 | 1 = とてもそう思う | 2 = まあまあそう思う | 3 = あまりそう思わない | 4 = まったくそう思わない |

22 英語の時間・活動でもっとアルファベットや文法も勉強しておきたかった。

1 = とてもそう思う 2 = まあまあそう思う 3 = あまりそう思わない 4 = まったくそう思わない

23 小学校の英語の時間・活動は好きだった。

1 = とても好きだった 2 = まあまあ好きだった 3 = 少し嫌いだった 4 = とても嫌いだった

24 あなたは、小学校6年生の時に、週に1回以上、英語塾（英会話学校・家庭教師を含む）に通っていましたか。 1 = はい 2 = いいえ

質問③ 中学校で英語を勉強するようになって、困ったことは何ですか。言葉で自由に書いてください。（マークカードに記入する必要はありません。）

質問④ 小学校の英語の時間・活動で勉強したことが中学校の英語の授業で生きているなあ（役に立ったなあ）と思うときは、どんな時・場面ですか。言葉で自由に書いてください。（マークカードに記入する必要はありません。）

() 年 () 組 氏名 ()

アンケートへの協力ありがとうございました。このアンケート用紙とマークカードの両方を先生に提出してください。

小中連携による外国語活動 小学生用アンケート

- 1 小学校名 () 小学校 先生に聞いて学校番号をマークしてください。
- 2 学年 () 年
- 3 組 () 組

質問① 英語の時間・活動について、あなたの感じるところを選んでください。アンケート用紙の該当の数字を○で囲み、その数字をマークしてください。

- | | | | | |
|---|------------|------------|----------|-----------|
| 4 英語の時間・活動は難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 5 英語の時間・活動で、英語を聞くことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 6 英語の時間・活動で、英語を話すことは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 7 英語の時間・活動で、先生や友達と英語で会話することは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 8 英語の時間・活動で、外国のことを勉強するのは難しいですか。 | 1 = とても難しい | 2 = やや難しい | 3 = やや簡単 | 4 = とても簡単 |
| 9 英語の時間・活動は好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 10 英語の時間・活動で、英語を聞くことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 11 英語の時間・活動で、英語を話すことは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 12 英語の時間・活動で、先生や友達と英語で会話することは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 13 英語の時間・活動で、外国のことを勉強するのは好きですか。 | 1 = とても好き | 2 = まあまあ好き | 3 = 少し嫌い | 4 = とても嫌い |
| 14 あなたは今、週に1回以上、英語塾（英会話学校・家庭教師を含む）に通っていますか。 | 1 = はい | 2 = いいえ | | |

質問② 英語の時間・活動で、困ったことは何ですか。言葉で自由に書いてください。（マークカードに記入する必要はありません。）

() 年 () 組 氏名 ()

アンケートへの協力ありがとうございました。このアンケート用紙とマークカードの両方を先生に提出してください。